



Sun Fire™ X4140、X4240、および X4440 サーバー Windows オペレーティングシス テムインストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-5224-11
2008 年 7 月、改訂 A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

未公開 - 本製品に関する権利は、米国著作権法により保護されています。

本製品には Sun Microsystems, Inc. の機密情報および企業秘密が含まれています。Sun Microsystems, Inc. の書面による事前の許可なく使用、公開、または複製することを禁じます。

本製品にはサードパーティーによって開発された素材が含まれている可能性があります。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, Solaris, Sun Fire 4140, Sun Fire 4240, Sun Fire 4440 は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

AMD Opteron および Opteron は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。Intel は、Intel Corporation の登録商標です。

本製品は、米国輸出管理法の対象であり、これらの法律により管理されます。また、その他の国の輸出または輸入に関する法律の対象となる可能性があります。原子力、ミサイル、生物化学兵器、または海洋核戦力の最終用途での本製品の使用、またはそれらに携わるエンドユーザーによる本製品の使用は、直接あるいは間接を問わず、固く禁じられています。米国の通商禁止国または輸出禁止リストに掲載されている団体、禁止対象の個人や特別に指定された国の国民などに対する輸出または再輸出は固く禁じられています。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Non publie - droits réservés selon la législation des Etats-Unis sur le droit d'auteur.

CE PRODUIT CONTIENT DES INFORMATIONS CONFIDENTIELLES ET DES SECRETS COMMERCIAUX DE SUN MICROSYSTEMS, INC. SON UTILISATION, SA DIVULGATION ET SA REPRODUCTION SONT INTERDITES SANS L'AUTORISATION EXPRESSE, ECRITE ET PREALABLE DE SUN MICROSYSTEMS, INC.

Cette distribution peut inclure des éléments développés par des tiers.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris et Sun Fire 4140, Sun Fire 4240, and Sun Fire 4440 sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

AMD Opteron et Opteron sont marques déposées de Advanced Micro Devices, Inc. Intel est une marque déposée de Intel Corporation

Ce produit est soumis à la législation américaine sur le contrôle des exportations et peut être soumis à la réglementation en vigueur dans d'autres pays dans le domaine des exportations et importations. Les utilisations finales, ou utilisateurs finaux, pour des armes nucléaires, des missiles, des armes biologiques et chimiques ou du nucléaire maritime, directement ou indirectement, sont strictement interdites. Les exportations ou reexportations vers les pays sous embargo américain, ou vers des entités figurant sur les listes d'exclusion d'exportation américaines, y compris, mais de manière non exhaustive, la liste de personnes qui font objet d'un ordre de ne pas participer, d'une façon directe ou indirecte, aux exportations des produits ou des services qui sont régis par la législation américaine sur le contrôle des exportations et la liste de ressortissants spécifiquement désignés, sont rigoureusement interdites.

L'utilisation de pièces détachées ou d'unités centrales de remplacement est limitée aux réparations ou à l'échange standard d'unités centrales pour les produits exportés, conformément à la législation américaine en matière d'exportation. Sauf autorisation par les autorités des Etats-Unis, l'utilisation d'unités centrales pour procéder à des mises à jour de produits est rigoureusement interdite.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. 概要 1

Windows Server 2003 のインストールについて 1

インストールに関する重要な考慮事項 2

サポートされている Windows オペレーティングシステム 3

Sun Installation Assistant (SIA) を使用した簡易インストール 4

手動インストール 4

2. Sun Installation Assistant の使用 5

Sun Installation Assistant について 6

USB フラッシュドライブでの SIA の使用 7

要件 7

ソフトウェアの取得 7

▼ syslinux および SIA ソフトウェアを取得する 8

USB フラッシュドライブの準備 8

▼ Windows システムで USB フラッシュドライブを準備する 8

▼ Linux (Red Hat/SUSE) システムで USB フラッシュドライブを準備する 9

BIOS パラメータの設定と SIA USB フラッシュドライブからのブート	10
▼ BIOS パラメータを設定し、SIA USB フラッシュドライブからブートする	11
Windows での SIA の使用方法	12
Sun Fire サーバーでの SIA によるインストール方法	12
▼ SIA を使用してオペレーティングシステムをインストールする	12
トラブルシューティング	21
エラーメッセージ	21
SIA インストールログファイル	22
3. サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード	23
4. 取得方法の選択	25
大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択	25
Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択	26
5. 大容量記憶装置ドライバ取得の準備	29
フロッピーディスクの作成	29
▼ Windows を使用したフロッピーディスクの作成	30
▼ フロッピーディスクの自動作成	31
▼ フロッピーディスクの手動作成	33
▼ Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクの作成	34
フロッピーイメージファイルのコピー	36
▼ Windows を使用したフロッピーイメージファイルのコピー	37
▼ Linux または Solaris を使用したフロッピーイメージファイルのコピー	38
6. JavaRConsole システムの設定	41
JavaRConsole システムの要件	42
JavaRConsole システムのセットアップ	42
▼ JavaRConsole システムをセットアップする	43

7.	Windows Server 2003 のインストール	49
	インストール要件	49
	オペレーティングシステムのインストール	51
	▼ オペレーティングシステムをインストールする	51
8.	重要なシステム固有ドライバのアップデート	57
	システム固有ドライバのアップデート	58
	▼ システム固有ドライバをアップデートする	58
	オプションコンポーネントのインストール	62
	▼ オプションコンポーネントをインストールする	63
	IPMItool のインストールの完了	64
	要件	65
	▼ IPMI System Management ドライバをインストールする (Windows Server 2003 R2)	65
9.	RIS イメージへの Sun Fire ドライバの組み込み	67
	必要なドライバの確認	67
	RIS イメージへのドライバの追加	68
	▼ RIS イメージにドライバを追加する	68
	索引	71

はじめに

本書では、Sun Fire X4140、X4240、または X4440 サーバーへの Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストール手順について説明します。

関連ドキュメント

Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーのドキュメントセットの説明については、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、次の製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://docs.sun.com>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun のハードウェア、ソフトウェア、および Solaris 関連のすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com>

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	dir を使用してすべてのファイルを表示します。
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	> ipconfig Password:
<i>AaBbCc123</i>	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『 <i>User's Guide</i> (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、管理者権限が必要です。 ファイルを削除するには、del <ファイル名> と入力します。
AaBbCc123	ダイアログボックスのタイトル、ダイアログボックス内のテキスト、オプション、メニュー項目、およびボタン。	1. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

概要

この章では、Sun Fire X4140、X4240、または X4440 サーバーに Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする前に知っておく必要のある情報について説明します。

注 – この章には、インストール処理中に役立つ重要なガイドラインおよび情報が記載されています。Windows Server 2003 のインストールを開始する前に、必ずこの章の残りの部分に目を通してください。

この章には次のセクションがあります。

- 「Windows Server 2003 のインストールについて」(1 ページ)
- 「インストールに関する重要な考慮事項」(2 ページ)
- 「サポートされている Windows オペレーティングシステム」(3 ページ)
- 「Sun Installation Assistant (SIA) を使用した簡易インストール」(4 ページ)
- 「手動インストール」(4 ページ)

Windows Server 2003 のインストールについて

Sun Fire X4140、X4240、X4440 の各サーバーには、Windows Server 2003 オペレーティングシステムに付属していないサーバー固有のドライバが追加が必要です。本書の以降の章で、オペレーティングシステムおよびドライバへのアクセス方法、ならびにこれらのインストール方法を説明します。このインストール手順は、32 ビットおよび 64 ビット両方のバージョンの Microsoft Windows Server 2003 で実行できます。

インストールに関する重要な考慮事項

Sun Fire X4140、X4240、または X4440 サーバーへの Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要な考慮事項について検討してください。

- Windows オペレーティングシステムをインストールするときに、あらかじめインストールされていたオペレーティングシステムを含め、ブートドライブのすべてのデータが上書きされます。
- LSI Logic または Adaptec の統合 RAID コントローラが付属しているサーバーで、RAID の設定にブートドライブを含める場合は、Windows オペレーティングシステムをインストールする前に、コントローラのセットアップユーティリティを使用して RAID ボリュームを設定する必要があります。コントローラのセットアップユーティリティにはサーバーのブート時にアクセスできます。
- インストール時に最も注意すべき点は、ディスクコントローラ用の大容量記憶装置ドライバをインストールすることです。Microsoft Windows Server 2003 のメディアには、オペレーティングシステムのインストールに必要な大容量記憶装置ドライバが収録されていません。
- **Sun Installation Assistant** を使用して **Windows** をインストールする場合は、インストール時に、必要なドライバがすべてインストールされます。SIA では、ローカルまたはリモートの CD/DVD から Windows をインストールできます。SIA の詳細については、「[Sun Installation Assistant \(SIA\) を使用した簡易インストール](#)」(4 ページ) を参照してください。
- **Microsoft Windows** のインストールメディアを使用して **Windows** を手動でインストールする場合は、大容量記憶装置ドライバをフロッピーディスクから取得する必要があります。Windows のインストールプログラムでは、フロッピードライブ A からしか大容量記憶装置ドライバを読み込めません。大容量記憶装置ドライバの取得に関しては、CD や DVD、または USB フラッシュドライブなど、他のデバイスはサポートされていません。
- 手動でインストールする場合は、次の 3 つの方法で、Windows Server 2003 のインストール用のドライバを取得できます。
 - Sun Fire サーバーに接続された物理 USB フロッピードライブを使用します。
 - リモート KVMS (リモートキーボード、ビデオ、マウス、記憶装置 - ネットワークに接続されたシステムを介した、サーバーのキーボード、ビデオ出力、マウス、および記憶装置のリダイレクトを可能にする) を使用して、JavaRConsole (JavaRConsole システム - ネットワークに接続されたシステムから実行するリモートコンソール) が動作している別のシステム上の物理フロッピードライブにフロッピードライブをリダイレクトします。
 - リモート KVMS を使用して、JavaRConsole をホストしている別のシステムのフロッピーイメージファイルにフロッピーデバイスをリダイレクトします。

- また、手動インストールでは、Windows Server 2003 のインストールメディアを、次の 3 つの方法で取得することもできます。
 - Sun Fire サーバーに接続された物理 DVD/CD ドライブを使用します。
 - リモート KVMs を使用して、JavaRConsole システムの物理 CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
 - リモート KVMs を使用して、JavaRConsole システム上の Windows CD イメージに CD ドライブをリダイレクトします。

本書のインストール手順に従うと、大容量記憶装置ドライバおよびオペレーティングシステムのメディアのインストール方法を選択できます。

注 – RKVMS を使用してインストールする場合は、どの方法でも、『*Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide* (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)』(820-1188) で、インストールに必要なハードウェアのセットアップの詳細を参照する必要があります。

サポートされている Windows オペレーティングシステム

本書の発行時点で、Sun Fire X4140、X4240、X4440 の各サーバーは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Standard Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Enterprise Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、Standard x64 Edition (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、Enterprise x64 Edition (64 ビット)

サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストは、次のサーバー固有の Web サイトで参照できます。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4140/os.jsp>

<http://www.sun.com/servers/x64/x4240/os.jsp>

<http://www.sun.com/servers/x64/x4440/os.jsp>

Sun Installation Assistant (SIA) を使用した簡易インストール

この方法では、Sun Installation Assistant (SIA) を使用して、ローカルまたはリモートで Microsoft Windows Server 2003 をサーバーに簡単にインストールできます。

この方法でインストールする場合は、[第 2 章](#)に進みます。

手動インストール

この方法は、ローカルまたはリモートで Microsoft Windows Server 2003 を 1 台以上のサーバーに手動でインストールする上級ユーザーを対象にしています。

注 – Preboot Execution Environment (PXE) サーバーを使用して Windows Server 2003 をインストールする予定の場合は、[第 9 章「RIS イメージへの Sun Fire ドライバの組み込み」\(67 ページ\)](#) を参照してください。

CD メディアからサーバーに Windows Server 2003 をインストールする場合は、次の手順を記載の順序に従って実行します。

1. [サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード \(第 3 章を参照\)](#)。
2. [取得方法の選択 \(第 4 章を参照\)](#)。
3. [大容量記憶装置ドライバ取得の準備 \(第 5 章を参照\)](#)。
4. [JavaRConsole システムの設定 \(必要に応じて。第 6 章を参照\)](#)。
5. [Windows Server 2003 のインストール \(第 7 章を参照\)](#)。
6. [重要なシステム固有ドライバのアップデート \(第 8 章を参照\)](#)。

上記の手順を完了すると、Windows Server 2003 オペレーティングシステムが正常にインストールされます。

Sun Installation Assistant の使用

この章では、Sun Installation Assistant (SIA) の使用方法について説明します。SIA は、オペレーティングシステムを簡単にインストールできるようにする、使いやすいプログラムです。この章には、次のセクションがあります。

- 「Sun Installation Assistant について」 (6 ページ)
- 「USB フラッシュドライブでの SIA の使用」 (7 ページ)
- 「Windows での SIA の使用方法」 (12 ページ)
- 「トラブルシューティング」 (21 ページ)

注 – 実行するインストールの手順は、サーバーまたはオペレーティングシステムに固有の作業があるため、異なる可能性があります。これらの作業の説明をよく読み、使用しているサーバーとオペレーティングシステムに適した作業を実行してください。

Sun Installation Assistant について

Sun™ Installation Assistant (SIA) は、x64 Sun サーバーでサポートされている Linux または Windows オペレーティングシステム (OS) のインストールを支援する、CD ベースのツールです。CD には、品質保証テスト済みの Sun 対応ドライバセットが収められています。

SIA CD または USB フラッシュドライブを使用して、オペレーティングシステム、適切なドライバ、および追加のソフトウェアをシステムにインストールできます。SIA を使用することにより、ドライバ CD を作成する手間が省けます。

注 – SIA CD によって、自動的に OS がインストールされるわけではありません。SIA を使用した場合でも、OS ベンダーのネイティブ GUI インストールプログラムの手順に従って操作する必要がありますが、別個のドライバ CD を作成する必要はありません。SIA によって、Sun 対応ドライバが自動的にインストールされます

SIA は次の作業を実行します。

- システムのハードウェアを識別し、OS のインストールに必要な Sun サーバードライバを準備します。
- システム BIOS、SP ファームウェア、およびインストールされているデバイスのファームウェアのアップグレードや、アクセスできない SP の回復などに使用できるツールを提供します。使用可能なツールはシステムによって異なる可能性があります。
- OS ベンダーのネイティブのインストールプログラムを起動します。
- OS のインストール処理中に、適切なドライバとプラットフォーム固有のソフトウェアを識別し、インストールします。

SIA は新しいシステムに付属しており、使用しているシステムによっては、<http://www.sun.com/download/index.jsp> からダウンロードすることもできます。

USB フラッシュドライブでの SIA の使用

このセクションでは、USB フラッシュドライブ (USB サムドライブ、USB キーなど) を SIA のブートドライブとして準備する方法、および SIA USB フラッシュドライブをブートして OS のインストール処理を開始する方法を説明します。USB フラッシュドライブを使用しない場合は、このセクションは不要です。

要件

- SIA バージョン 2.0.144 以降 (これ以前のバージョンの SIA では、USB フラッシュドライブはサポートされません)
- 1 GB 以上の USB 2.0 フラッシュドライブ
- Windows XP または Linux を実行し、USB 2.0 互換ポートを搭載しているシステム
- インターネットアクセス (必要なソフトウェアをダウンロードするため)
- SIA を使用する Sun サーバーに、USB 2.0 互換ポートが搭載されている必要があります。

SIA USB フラッシュドライブを準備してそこから起動するには、次の手順が必要です。

- [「ソフトウェアの取得」 \(7 ページ\)](#)
- [「USB フラッシュドライブの準備」 \(8 ページ\)](#)
- [「BIOS パラメータの設定と SIA USB フラッシュドライブからのブート」 \(10 ページ\)](#)

ソフトウェアの取得

ここでは、syslinux および SIA ソフトウェアを取得する場所について説明します。USB フラッシュドライブを準備し、SIA をブートするには、syslinux ソフトウェアが必要です。Windows または Linux のどちらのコンピュータでも、syslinux および SIA ソフトウェアをダウンロードし、起動用の USB フラッシュドライブを準備できます。

▼ syslinux および SIA ソフトウェアを取得する

注 – SIA-2.0.144.zip は、USB フラッシュドライブからのブート用に設計されています。これより前のバージョンの SIA は、USB フラッシュドライブメディアから実行できません。

1. syslinux-3.52 アーカイブを次の Web サイトからダウンロードします。

<https://sun.com/downloads>

サーバーのダウンロードページに移動します。ダウンロード用ファイルのセクションで、syslinux-3.52.zip (または、これ以降のバージョン) を選択し、Windows XP または Linux (Red Hat または SUSE) システムの適切なファイルフォルダにダウンロードします。

2. SIA-2.0.144 ブート可能フラッシュドライブイメージのアーカイブファイルを次の Web サイトからダウンロードします。

<https://sun.com/downloads>

サーバーのダウンロードページに移動します。ダウンロード用ファイルのセクションで、SIA-2.0.144.zip (または、これ以降のバージョン) を選択し、Windows XP または Linux (Red Hat または SUSE) システム上の適切なファイルフォルダにダウンロードします。

USB フラッシュドライブの準備

このセクションでは、USB フラッシュドライブを使用して、SIA ソフトウェアをサーバーで実行できるようにする方法を説明します。Windows または Linux のどちらのシステムでも USB フラッシュドライブを準備できます。Windows システムと Linux システムでは手順が異なります。両方の手順を次に示します。

▼ Windows システムで USB フラッシュドライブを準備する

1. syslinux-3.52.zip のコンテンツを展開 (解凍) します。
2. USB 2.0 ポートに USB フラッシュドライブを挿入します。



注意 – データが失われる可能性があります。フォーマットを実行すると、ドライブに保存されているすべてのデータが削除されます。ドライブをフォーマットするときは、ドライブを正しく選択してください。

3. Windows のディスクフォーマットプログラムを使用して、USB フラッシュドライブを FAT32 形式でフォーマットします。

4. 次の `syslinux` 実行可能ファイルを起動します。

```
path%syslinux%win32%syslinux.exe X:
```

`path` の箇所には `syslinux` の展開先のフォルダ、`X` には USB フラッシュドライブのドライブ文字 (A:, B: など) を指定します。

これにより、`ldlinux.sys` ファイルがフラッシュドライブに作成されます。

5. SIA-2.0.144.zip ファイルのコンテンツを USB フラッシュドライブに展開 (解凍) します。

展開が終了すると、フラッシュドライブに次のファイルが表示されます。

```
syslinux.cfg  
initrd.img  
prerd.img  
ldlinux.sys
```

6. USB フラッシュドライブを取り外すには、「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックし、フラッシュドライブをシステムから取り外します。

これで USB フラッシュドライブは SIA をブートできるようになりました。SIA USB フラッシュドライブを使用して OS のインストールを開始する手順については、「[BIOS パラメータの設定と SIA USB フラッシュドライブからのブート](#)」(10 ページ) を参照してください。

▼ Linux (Red Hat/SUSE) システムで USB フラッシュドライブを準備する

1. `syslinux-3.52.zip` のコンテンツを展開 (解凍) します。例:

```
# unzip syslinux-3.52.zip
```

2. 有効な USB 2.0 ポートに USB フラッシュドライブを挿入します。

3. `fdisk` を使用してパーティションをすべて削除し、ブート可能な新しい FAT32 パーティションを作成します。

```
# fdisk /dev/sdX
```

`X` には、USB フラッシュドライブのドライブ文字を指定します (例: `/dev/sda` または `/dev/sdb`)。

4. `mkdosfs` を使用して、DOS ファイルシステムを作成します。

```
# mkdosfs /dev/sdX
```

5. `syslinux/unix` ディレクトリに移動します。

```
# cd path/syslinux/unix
```

`path` の箇所には、`syslinux` の展開先のフォルダを指定します。

6. **syslinux** を実行します。

```
# syslinux /dev/sdX
```

X には、USB フラッシュドライブのドライブ文字を指定します (例: /dev/sda または /dev/sdb)。

7. フラッシュドライブを適切なマウントポイントにマウントします。

```
# mount -t msdos /dev/sdX /mnt
```

X には、USB フラッシュドライブのドライブ文字を指定します (例: /dev/sda または /dev/sdb)。

8. SIA-2.0.144.zip ファイルのコンテンツを USB フラッシュドライブに展開 (解凍) します。

展開が終了すると、フラッシュドライブに次のファイルが表示されます。

```
syslinux.cfg  
initrd.img  
prerd.img  
ldlinux.sys
```

9. USB フラッシュドライブのマウントを解除します。

```
# umount /dev/sdX
```

X には、USB フラッシュドライブのドライブ文字を指定します (例: /dev/sda または /dev/sdb)。

10. クライアントコンピュータからフラッシュドライブを取り外します。

これで USB フラッシュドライブは SIA をブートできるようになりました。SIA USB フラッシュドライブを使用して OS のインストールを開始する手順については、次のセクション「[BIOS パラメータの設定と SIA USB フラッシュドライブからのブート](#)」を参照してください。

BIOS パラメータの設定と SIA USB フラッシュドライブからのブート

ここでは、サーバーの BIOS パラメータを設定し、USB フラッシュドライブから SIA をブートする方法を説明します。このセクションの手順は、OS のインストール先のサーバーで実行します。

注 – システムコンソールのブートメッセージが表示されるように設定しておく必要があります。

▼ BIOS パラメータを設定し、SIA USB フラッシュドライブからブートする

1. 使用可能な USB 2.0 ポートに SIA USB フラッシュドライブを挿入します。
2. システムをリブートし、BIOS プロンプトの画面が表示されるまで待ちます。プロンプトが表示されたら、BIOS セットアップを起動します。
BIOS セットアップ画面が表示されます。
3. 「Advanced (詳細)」メニューの「USB Configuration (USB 構成)」を選択し、「USB controller setup (USB コントローラセットアップ)」画面で、「High Speed (高速)」モードを選択します。
4. 「Boot (ブート)」を選択し、「Hard Disk setup (ハードディスクセットアップ)」画面で、USB フラッシュドライブを一次起動デバイスとして設定します。
起動デバイスの一覧で、USB フラッシュドライブが一番上に表示されます。
5. 「Save and Exit (保存して終了)」を選択して、変更内容を保存し、SIA をブートします。
BIOS セットアップが終了し、システムが SIA USB フラッシュドライブから起動します。

注 – SIA USB フラッシュドライブを使用してオペレーティングシステムをインストールした場合は、OS を OS 配布メディアからサーバーのハードディスクに初期インストールした後、インストールを完了するためにリブートする必要があります。その時点で、USB フラッシュドライブを取り外すか、BIOS の設定でブートの優先順位を下げ、サーバーがハードディスクからブートするようにしてインストールを完了する必要があります。

6. 次の SIA の使用方法に関するセクションに進みます。

Windows での SIA の使用方法

このセクションでは、Sun Installation Assistant (SIA) を使用して、サポートされている x64 Sun サーバーに Windows をインストールする方法を説明します。必ずしも SIA を使用する必要はありませんが、SIA を使用した方が、Microsoft Windows Server 2003 ディストリビューションを簡単にインストールできます。

Sun Fire サーバーでの SIA によるインストール方法

SIA では、次のいずれかの方法を使用して、サポートされている Sun Fire サーバーにオペレーティングシステムをインストールできます。

- SIA CD、または SIA ソフトウェアが展開された USB フラッシュドライブを使用した、サーバーでのローカルインストール。サーバーの CD/DVD ドライブに挿入した CD、またはサーバーのいずれかの USB ポートに直接接続された USB フラッシュドライブから SIA をブートします。
- ILOM リモート CD-ROM 機能とリモートコンソールアプリケーションを使用したリモートインストール。この方法では、仮想 CD-ROM ドライブから SIA をインストールできます。ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した、システムサーバーへのリモート KVMs 接続のセットアップについては、使用中の Sun サーバーの『Integrated Lights Out Manager (ILOM)』のドキュメントを参照してください。ILOM には複数のバージョンがあるので、必ず、使用中のサーバーにインストールされている ILOM のバージョンに一致するガイドを参照してください。

▼ SIA を使用してオペレーティングシステムをインストールする

Sun Installation Assistant を使用するには、次の手順に従います。

1. 前のセクションのいずれかのインストール方法を使用して、SIA を起動します。
 - SIA CD をサーバーの CD/DVD ドライブに挿入し、サーバーをブートまたはリブートします。
 - SIA ソフトウェアが展開された USB フラッシュドライブを、サーバーのいずれかの USB ポートに直接接続します。「[BIOS パラメータの設定と SIA USB フラッシュドライブからのブート](#)」(10 ページ)の説明に従ってサーバーをリダイレクトし、USB フラッシュドライブからブートします。
 - KVM 経由でサーバーの ILOM にログインし、「Remote Control (リモートコントロール)」の「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」機能を使って、サーバーを仮想 CD-ROM にリダイレクトします。

注 – 以下の手順は、ローカル CD/DVD ドライブにアクセスすることを前提にしています。SIA ソフトウェアが展開されたローカルの USB フラッシュドライブを使用する場合や、KVM と CD-ROM リダイレクトを使用して OS をリモートでインストールする場合は、適宜手順を変更してください。

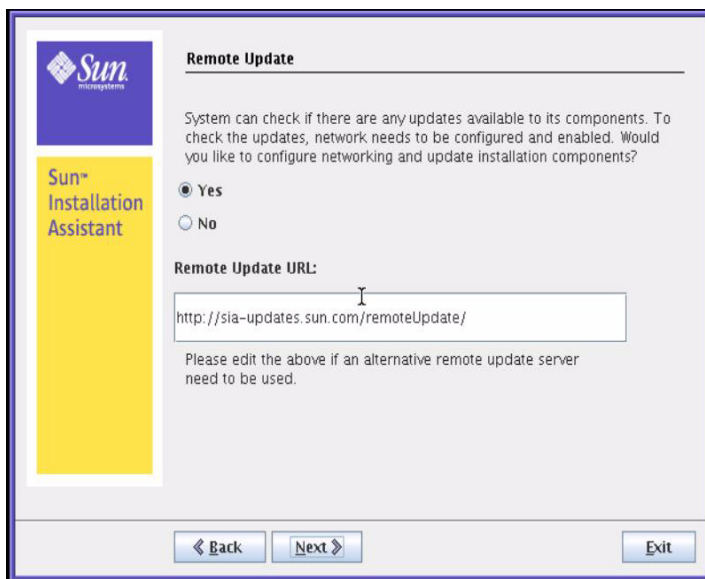
2. ソフトウェアライセンス契約の画面で、「Accept (同意する)」を選択して操作を続行します。

「Accept (同意する)」ラジオボタンを選択するには、ライセンスウィンドウの下までスクロールします。

3. 「Welcome (ようこそ)」画面で、「Next (次へ)」をクリックします。

4. 「Remote Update (リモートアップデート)」画面で、アップデートの有無を確認します。

SIA では、新しいドライバやプラットフォームを有効にしたり、その他の問題を修正したりするアップデートをダウンロードできます。アップデートをダウンロードするには、サーバーへのネットワーク接続を確立しておく必要があります。



次のいずれかを行います。

- リモートアップデートを実行しない場合は、「No (いいえ)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックして手順 5 に進みます。
- リモートアップデートを実行する場合は、「Yes (はい)」を選択します。次の手順に従って、ネットワークを設定する必要があります。

- a. 「Gathering Information (情報の収集)」 ダイアログボックスが表示されます。

The screenshot shows the 'Gathering Information' dialog box in the Sun Installation Assistant. The interface includes a sidebar with the Sun logo and the text 'Sun Installation Assistant'. The main content area is titled 'Gathering Information' and contains the instruction 'Enter your network(Interface & IP) configuration'. A dropdown menu is set to 'eth0'. There are two radio button options: 'DHCP' (which is selected) and 'Static IP'. Under the 'Static IP' option, there are five input fields labeled 'IP Address:', 'Netmask:', 'Gateway:', 'Nameserver:', and 'Domain:'. Below these fields is a checkbox for 'Http Proxy Configuration (Remote update purpose only)', with two sub-input fields for 'Proxy Host:' and 'Proxy Port:'. At the bottom of the dialog, there are three buttons: 'Back', 'Next', and 'Exit'.

- b. アクティブなネットワークインタフェースを選択します (例: eth0)。
選択したネットワークインタフェースが、アップデートイメージへのアクセスに使用されます。サーバーに複数のネットワークカードがインストールされている場合は、アップデートイメージが存在するホストへのアクセスが可能なネットワーク接続インタフェースを使用して下さい。
- c. 設定方法 (DHCP または静的) を選択します。
静的な方法を選択した場合は、必要な情報 (IP アドレス、ゲートウェイなど) を入力します。
- d. 外部 Web サイト (たとえば、sia-updates.sun.com) へのアクセスに HTTP プロキシが必要な場合は、プロキシ情報を入力します。

注 – FTP を選択した場合は、サーバーで匿名 FTP がサポートされている必要があります。匿名 FTP では、iso インストールイメージを解凍したディレクトリにアクセスできることが条件になります。

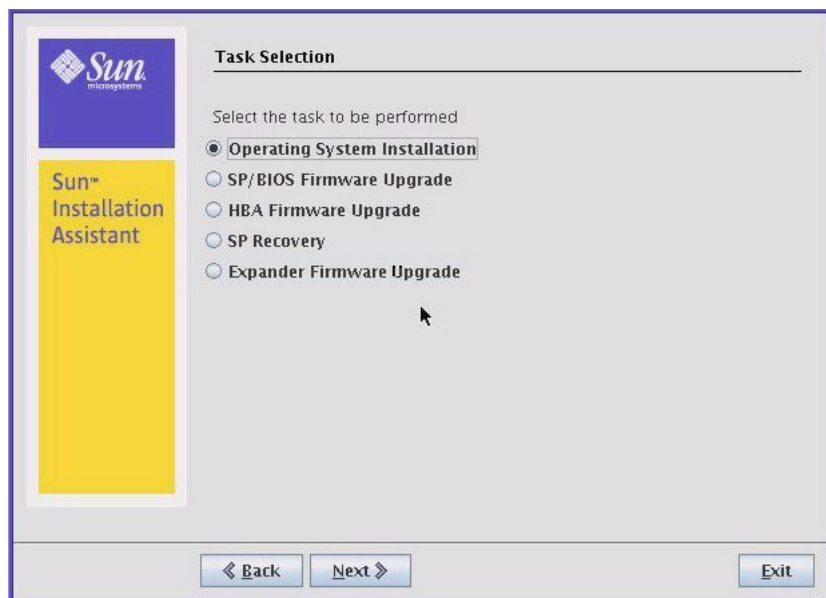
- e. 「Next (次へ)」 をクリックします。
アップデートの有無が確認され、利用可能なアップデートが表示されます。アップデートされたコンポーネントが必要な場合は、該当するコンポーネントがダウンロードされます。

5. 「Identify the System (システムの識別)」画面が表示されます。適切なハードウェアがインストールされ、オペレーティングシステムのメモリが十分にあることを確認します。「Next (次へ)」をクリックして、続行します。
6. 「Scanning for Option Cards and SCSI devices (オプションカードと SCSI デバイスのスキャン)」画面が表示されます。
システムに存在するオプションカードと SCSI ディスクの一覧が表示されてから自動的に次の画面に進みます。

注 — 一部のオプションカードのドライバでは、デフォルトではなくカスタムインストールを選択し、開発パッケージを指定する必要があります。この操作を行わないと、OS は正常にインストールされますが、そのオプションカードのドライバはインストールされません。

7. 「Task Selection (作業の選択)」画面が表示されます。

この画面には、サーバーでサポートされている作業オプションの一覧が表示されます。たとえば、オペレーティングシステムのインストール、サーバーの SP/BIOS ファームウェアのアップグレード、およびサーバーにインストールされている他のデバイス (ホストバスアダプタなど) のファームウェアアップグレードオプションが表示される可能性があります。



8. インストール作業を選択します。

- オペレーティングシステムのインストールを選択した場合は、[手順 11](#)に進みます。
- サーバーのサービスプロセッサファームウェアとシステム BIOS のアップグレードを選択した場合は、[手順 9](#)に進みます。
- サーバーに搭載されている他のデバイスのファームウェアのアップグレードを選択した場合は、[手順 10](#)に進みます。
- この画面に表示されていない他の作業については、該当する作業を選択し、画面の指示に従って操作します。

9. SP/BIOS ファームウェアをアップグレードするには、次の手順に従います。

- a. サービスプロセッサの IP アドレスとパスワードを入力します。入力したら、「Next (次へ)」をクリックします。

注 – サービスプロセッサは、ホストと同じネットワークに存在する必要があります。

- b. ネットワーク設定情報を入力します。入力したら、「Next (次へ)」をクリックします。

前の「Remote Update (リモートアップデート)」画面で「Yes (はい)」を選択した場合は、そこで入力したネットワーク設定情報が使用されます。「No (いいえ)」を選択した場合は、[手順 4](#)を参照し、入力する情報の詳細を確認してください。

- c. サーバーにインストールされているバージョンよりも新しいバージョンのファームウェアイメージがあるかどうかを SIA が確認します。

サーバーに現在インストールされているバージョンよりも新しいバージョンのイメージが**存在しない**場合は、アップグレードを行う必要はありません。必要に応じて「Go to Task List (作業リストを表示する)」ボタンをクリックし、別の作業を選択します。

新しいバージョンのイメージが存在する場合は、アップデートの開始を確認するプロンプトが表示されます。「Next (次へ)」をクリックして、続行します。
手順 d に進みます。

- d. 作業が完了すると、サーバーがリブートします。次に、SIA CD を再起動し、インストール処理を続行します。すでに完了した手順はスキップしてかまいません。

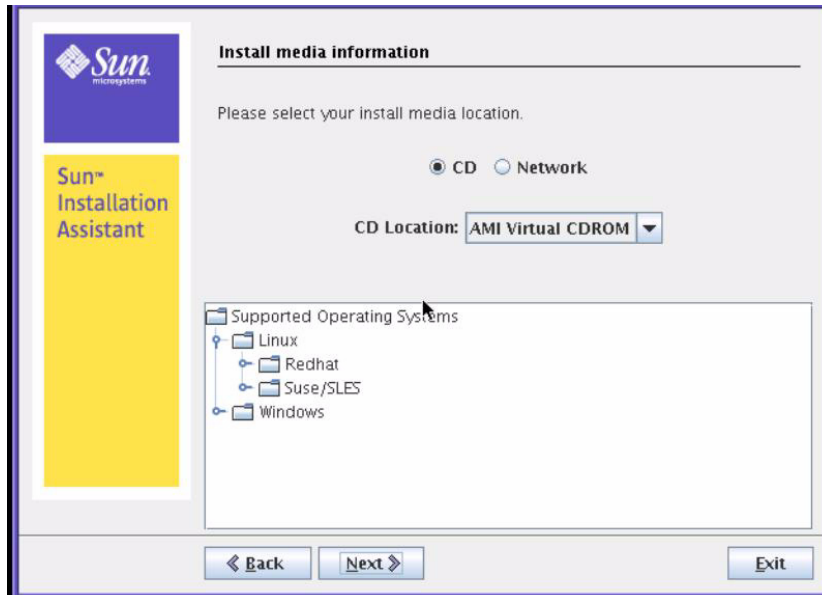
10. サーバーに搭載されている他のデバイスのファームウェアをアップグレードするには、次の手順に従います。
 - a. デバイスで現在使用しているバージョンよりも新しいバージョンのファームウェアイメージがあるかどうかを SIA が確認します。

デバイスで現在使用しているバージョンよりも新しいバージョンのイメージが存在しない場合は、アップグレードを行う必要はありません。必要に応じて「Go to Task List (作業リストを表示する)」ボタンをクリックし、別の作業を選択します。

新しいバージョンのイメージが存在する場合は、該当するデバイスの「Upgrade (アップグレード)」チェックボックスをオンにします。手順 b に進みます。
 - b. 画面の下にある「Upgrade Firmware (ファームウェアのアップグレード)」ボタンをクリックし、デバイスのファームウェアのアップグレードを続行します。

作業が完了すると、ファームウェアのアップグレードが完了したことを示すメッセージが表示されます。
 - c. デバイスで新しいファームウェアコードを使用するために、「Reboot (リブート)」ボタン (表示されている場合) をクリックします。サーバーが再起動したら、SIA CD からもう一度ブートしてインストール処理を続行します。すでに完了した手順はスキップしてかまいません。
11. オペレーティングシステムのインストール処理が開始されると、「Install Media (メディアのインストール)」画面が表示されます。

次の手順に従って、OS のインストールメディア (CD またはネットワーク) を選択します。

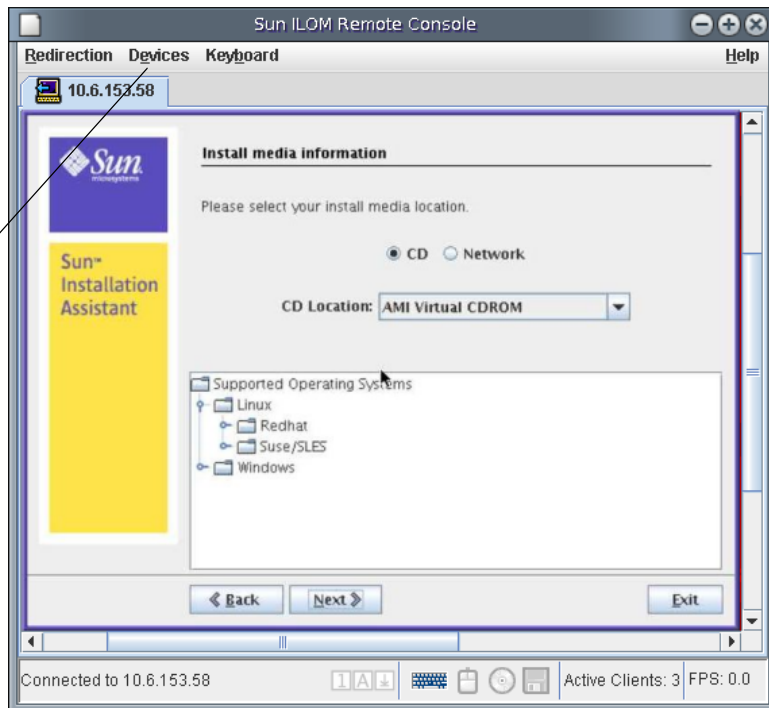


- CD からインストールするには、次の手順に従います。
 - i. SIA CD を取り外し、OS インストールメディアの Disc 1 CD をサーバーの CD/DVD ドライブに挿入します。
 - ii. 「CD」を選択します。
 - iii. サーバーの CD/DVD ドライブをドロップダウンリストから選択します。
 - iv. 「Next (次へ)」をクリックして、[手順 12](#)に進みます。
- Sun ILOM リモートコンソールの CD または ISO CD イメージから OS をインストールするには、次の手順に従います。
 - i. 「CD」をクリックします。
 - ii. 「AMI Virtual CDROM (AMI バーチャル CDROM)」を選択します。
 - iii. Sun ILOM リモートコンソールで、手順 1 で選択したメディアのネットワーク場所を指定します。次に例を示します。

SIA CD/DVD を仮想ドライブの場所からブートした場合は、SIA CD を取り出し、OS インストールメディアの Disc 1 CD を仮想ドライブに挿入します。

SIA ISO CD イメージからブートした場合は、「ILOM Remote Console Devices (ILOM リモートコンソールデバイス)」メニューで「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択解除して SIA CD-ROM イメージのマウントを解除し、次に「ILOM Remote Console Devices (ILOM リモートコンソールデバイス)」メニューで「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を再び選択して、OS ブートメディアの ISO イメージの場所を指定します。

ILOM リモート
コンソールの
「Devices (デバ
イス)」メニューを
使用して、CD や
ISO CD イメージ
などのデバイスを
マウントおよびアン
マウントします。



- iv. SIA で「Next (次へ)」をクリックして OS メディアを確認します。
- v. [手順 12](#)に進みます。
- ネットワークイメージからインストールするには、次の手順に従います。
 - i. 「Network (ネットワーク)」を選択します。
 - ii. アドレスバーにネットワークイメージのアドレスを入力します。
ネットワークイメージは、次のように HTTP、NFS、FTP のいずれかの形式で指定できます。
`http://host.name/imagepath` または
`http://ip.address/imagepath`
`nfs://host.name/imagepath` または
`nfs://ip.address/imagepath`
`ftp://host.name/imagepath` または
`ftp://ip.address/imagepath`
host.name はホストサーバーのドメイン名、*ip.address* はホストサーバーの IP アドレス、*imagepath* はイメージファイルの完全なパスです。

注 – サポートされている OS イメージの一覧については、
<http://www.sun.com/os.jsp> で、該当するサーバーモデルのセクションを参照してください。

iii. 「Next (次へ)」をクリックして、**手順 12**に進みます。

12. SIA が配布メディアを識別します。

たとえば、Windows 2003 をインストールする場合は、次のように表示されます。
Identifying distribution... identified as Windows Server 2003
Enterprise Edition - 64bit. (ディストリビューションの識別中...
Windows Server 2003 Enterprise Edition - 64bit と識別されました。)

注 – サポートされていないメディアを挿入すると、エラーメッセージが表示されます。

13. 「Next (次へ)」をクリックして、OS ディストリビューションのインストーラを起動します。

14. Windows では、システム情報と製品情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。必要な情報を入力したら、「Next (次へ)」をクリックします。

15. SIA がパーティションを作成し、OS ファイルをコピーして、インストールの準備を行います。この処理には、しばらく時間がかかることがあります。完了すると、「Setup Completed (セットアップの完了)」画面が表示されます。

16. この時点で、SIA CD を取り出すか、SIA ソフトウェアが展開された USB フラッシュドライブを使用している場合は、USB フラッシュドライブを取り外します。「Reboot (リブート)」をクリックします。

サーバーがリブートし、オペレーティングシステムのインストールを続行します。リモートアップデートを選択した場合は、Web から最新のファイルが取得されます。リモートアップデートを選択しなかった場合は、OS 配布メディア内のファイルが使用されます。画面の指示に従って操作し、プロンプトが表示されたらリブートを実行します。

17. Windows のインストールが完了したら、重要な Sun システム固有のドライバ、アップデートおよびオプションのソフトウェアをインストールします。これらについては、本書の他のセクションに記載されています。

トラブルシューティング

このセクションでは、SIA のメッセージと、SIA によるオペレーティングシステムのインストールに関する問題の解決方法について説明します。次の項目について説明します。

- 「エラーメッセージ」(21 ページ)
- 「SIA インストールログファイル」(22 ページ)

エラーメッセージ

Sun Installation Assistant にエラーまたは予期しない状態が発生した場合には、エラーメッセージが生成されます。次に、エラーメッセージの例を示します。メッセージはさまざまですが、いずれもわかりやすい内容です。

You have inserted Disc 3 but the system requires Disc 2. Please insert Disc 2. (Disc 3 を挿入しましたが、システムは Disc 2 を要求しています。Disc 2 を挿入してください。)

サポートされていない Windows バージョンの Sun Installation Assistant を使用した場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

The media you have provided is not a release that is supported by Sun Microsystems, Inc. on this platform. You cannot use the Sun Installation Assistant to install this product and associated software. (挿入したメディアのリリースは、このプラットフォームではサポートされていません。Sun Installation Assistant を使ってこの製品および関連ソフトウェアをインストールできません)

このような場合は、次のいずれかを実行します。

- サポートされた製品をインストールするには、「Back (戻る)」をクリックしてから適切なメディアを挿入します。
- このサポートされていない製品をインストールするには、「Exit (終了)」をクリックして Sun Installation Assistant を終了してから、システムをリブートします。これで、サポートされていない製品を通常どおりインストールできます。

サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストは、次のサーバー固有の Web サイトで参照できます。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4140/os.jsp>

<http://www.sun.com/servers/x64/x4240/os.jsp>

<http://www.sun.com/servers/x64/x4440/os.jsp>

SIA インストールログファイル

SIA のログファイルは、新たにインストールしたシステムのルートディレクトリに書き込まれます。

このログファイルを確認するには、SunInstallationAssistant.log を参照してください。Windows の場合は、C:¥にあります。

サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要なサーバー固有のドライバパッケージをダウンロードする方法を説明します。

注 – ツールとドライバの CD (707-0156-10 以降) がある場合は、この章をスキップして、第 4 章に進みます。この CD は、サーバー固有のドライバを最初にインストールするときに使用できます。また、ツールとドライバの CD は、Sun のダウンロードサイトからイメージとしてダウンロードすることもできます。

Windows Server 2003 のインストール用のサーバー固有のパッケージは、Windows.zip ファイルに含まれています。このファイルは、Sun Fire サーバーのダウンロードサイトからダウンロードできます。

ドライバをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. サーバー用ドライバのダウンロードサイトに移動します。

<http://www.sun.com/servers/x64/x4140/downloads.jsp>

<http://www.sun.com/servers/x64/x4240/downloads.jsp>

<http://www.sun.com/servers/x64/x4440/downloads.jsp>

2. 次のいずれかの手順でダウンロードします。

- Windows Server 2003 のメディアをインストールする場合は、インストール中にアクセスできるハードドライブ上の場所またはメディアに **Windows.zip** をダウンロードします。Windows.zip に含まれている次のサブパッケージを展開します。
 - FloppyPack_x_x_x.zip (LSI、Adaptec、NVIDIA の各ディスクコントローラドライバと AMI 仮想フロッピードライバが含まれている)
 - InstallPack_x_x_x.exe (システム固有のデバイスドライバすべてをインストールするためのプログラム)

- DriverPack_x_x_x.zip (上級者向けの Windows Server 2003 のシステム固有のドライバアーカイブ、英語)。第 9 章で説明する PXE インストールを実行する場合は、このファイルをダウンロードします。
- OptPack_x_x_x.zip (上級者向けのオプションコンポーネントのアーカイブ)。PXE インストールにオプションコンポーネントを組み込む場合は、このファイルをダウンロードします。
- PXE を使用して Windows Server 2003 をインストールする場合 (上級者向けインストール) は、**DriverPack_x_x_x.zip** ファイルを PXE サーバーに展開します。

注 - _x_x_x はパッケージのバージョン番号です (例: FloppyPack_1_1_4.zip)。本書では、わかりやすいように、この番号をファイル名に付けていません。

3. オペレーティングシステムのインストールを開始するとき、ドライバパッケージが使用できることを確認します。第 4 章に進み、取得方法を選択します。

取得方法の選択

この章では、インストール用の大容量記憶装置ドライバおよび Windows のメディアの取得方法をどのように選択するかについて説明します。

大容量記憶装置ドライバおよび Windows Server 2003 のメディアの取得方法を選択するには、次の手順に従います。

1. [大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択](#)。
2. [Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択](#)。
3. 選択した取得方法をメモしてから、[第 5 章](#)に進みます。

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択

サーバーへの Windows Server 2003 のインストール用の大容量記憶装置ドライバを準備するには、次の 3 つの方法があります。

- **フロッピーローカル**: サーバーの USB ポートの 1 つに直接接続された物理 USB ドライブを使用します。
- **フロッピーリモート**: リモート KVMS を使用して、JavaRConsole システム上の物理ドライブにフロッピーデバイスをリダイレクトします。
- **フロッピーイメージ**: リモート KVMS を使用して、JavaRConsole システムのフロッピーイメージファイルにフロッピーデバイスをリダイレクトします。

[表 4-1](#) で、自分の環境の必要性に合った方法を選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 4-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

大容量記憶装置ドライバの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
フロッピーローカル	<ul style="list-style-type: none"> 次の Windows Marketplace サイトで「Designed for Windows」* と表示されている外部 USB フロッピードライブ: http://testedproducts.windowsmarketplace.com/ フロッピーディスク 	簡単
フロッピーリモート	<ul style="list-style-type: none"> Sun Fire サーバーのネットワーク管理ポートとその接続フロッピーディスクドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム フロッピーディスク 	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーローカルの方法よりもわずかに長くなります。
フロッピーイメージ	<ul style="list-style-type: none"> Sun Fire サーバーの管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム 	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーローカルの方法よりもわずかに長くなります。

* Windows 用の USB ドライブを使用しないと、OS のインストール中にドライバがインストールされるように見えますが、システムをリポートすると、Windows セットアップのグラフィック部分でドライバを再度見つけることができず、エラーメッセージが表示されてインストールが失敗に終わります。

Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択

Windows Server 2003 をサーバーにインストールするために Windows メディアを準備するには、次の 3 つの方法があります。

- *Windows ローカル*: Sun Fire サーバー上の物理 CD/DVD ドライブを使用します。
- *Windows リモート*: リモート KVMs を使用して、JavaRConsole システム上の物理 CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
- *Windows イメージ*: リモート KVMs を使用して、JavaRConsole システム上の Windows メディアイメージファイルに CD ドライブをリダイレクトします。

表 4-2 で、自分の環境の必要性に合った方法を選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 4-2 Windows Server 2003 のメディアの取得方法

大容量記憶装置ドライブの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
Windows ローカル	サーバーの CD/DVD ドライブ	簡単
Windows リモート	Sun Fire サーバーのネットワーク管理ポートとその接続 CD/DVD ドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。
Windows イメージ	Sun Fire サーバーの管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。

大容量記憶装置ドライバ取得の準備

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要な大容量記憶装置ドライバのメディアを準備する手順を説明します。

第 4 章で選択した方法に応じて、この章で説明する次のいずれかの手順に従います。表 5-1 を参照してください。

表 5-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

取得方法	手順記載セクション
フロッピーローカル	「フロッピーディスクの作成」(29 ページ)
フロッピーリモート	「フロッピーディスクの作成」(29 ページ)
フロッピーイメージ	「フロッピーイメージファイルのコピー」(36 ページ)

フロッピーディスクの作成

取得方法がフロッピーローカルまたはフロッピーリモートの場合、Windows のインストールを続行する前に、ドライバが保存されたフロッピーディスクを作成する必要があります。

次のシステム設定などがすぐに使用できる状態であることを確認してください。

- フロッピーディスクデバイスが接続されたシステム
- フロッピーディスク
- FloppyPack.zip (このパッケージの入手についての詳細は、第 3 章を参照)

使用しているシステムに応じて、次のいずれかのセクションの手順に従って、フロッピーディスクを作成します。

- Windows を使用したフロッピーディスクの作成
- Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクの作成

▼ Windows を使用したフロッピーディスクの作成

Windows システムを使用してフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. フロッピーディスクの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
 - ツールとドライバの CD を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順でファイルをコピーします。
 - a. Windows システムの CD/DVD デバイスにツールとドライバの CD を挿入します。
 - b. 次のディレクトリに移動します。

```
windows¥w2k3¥packages¥FloppyPack
```

注 – ドライバパッケージの完全な名前には、ファイル拡張子の前にバージョン番号が付きます。たとえば、FloppyPack_1_1_4.zip のようになります。本書では、わかりやすいように、この番号をファイル名に付けません。

- c. ファイルを Windows システムのディレクトリにコピーします。
- ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従ってファイルをコピーし、解凍します。
 - a. Microsoft Windows ソフトウェアを実行している、フロッピーディスクドライバを搭載したシステムで、FloppyPack.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - b. Windows エクスプローラを起動します。
 - c. ダウンロードしたファイルを保存したフォルダに移動します。
 - d. FloppyPack.zip を選択します。
 - e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

注 – 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を解凍します。解凍後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

- f. ファイルを新しい (空の) フォルダに解凍します。
2. 「[フロッピーディスクの自動作成](#)」または「[フロッピーディスクの手動作成](#)」の手順に従って、フロッピーディスクを作成します。

▼ フロッピーディスクの自動作成

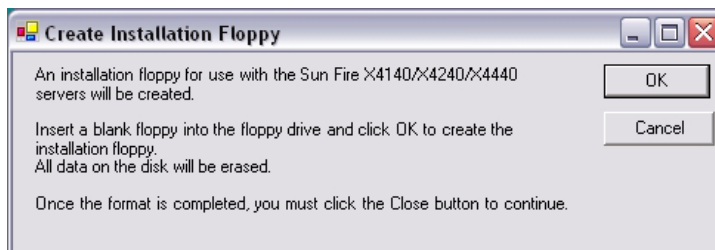
この方法では、フロッピーディスクが自動的に作成されます。

1. 書き込み可能なフロッピーディスクをシステムのコピーディスクドライブに挿入します。
2. Windows エクスプローラを起動し、解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
3. Windows エクスプローラで、解凍されたファイルのあるディレクトリを開き、`mkfloppy.exe` をダブルクリックします。

注 – アプリケーションが起動しない場合は、`mkfloppy.exe` アプリケーションと同じフォルダにある `README.RTF` ファイルを確認してください。

「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックスが表示されます。

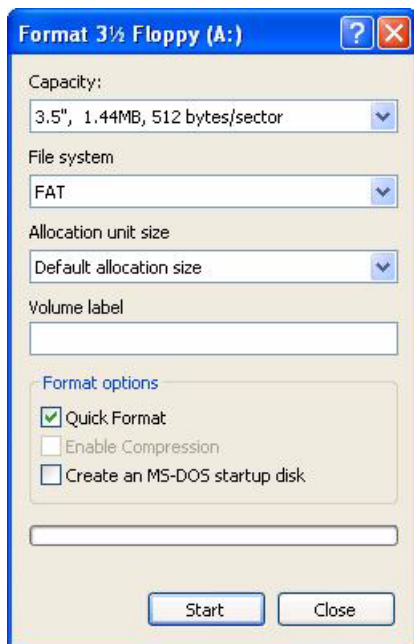
図 5-1 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックス



4. 「OK」をクリックします。

「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。

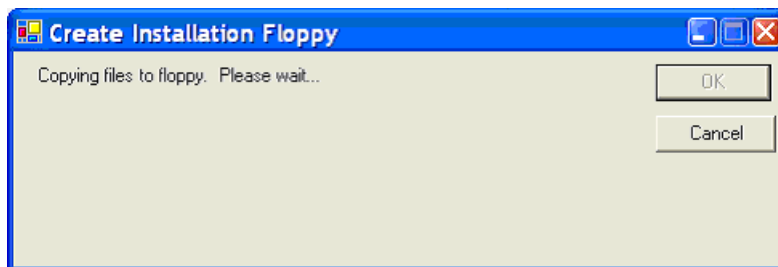
図 5-2 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス



5. フロッピーディスクのフォーマット設定を指定し、「開始」をクリックします。
この手順では、「クイックフォーマット」で問題ありません。

6. フォーマットが終了したら、「閉じる」をクリックします。
フロッピーディスクにファイルをコピーしていることを示す「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」メッセージが表示されます。

図 5-3 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」メッセージ



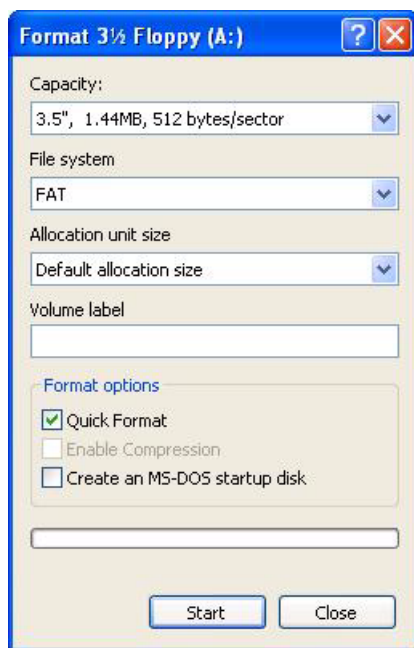
7. ファイルがコピーされたら、「OK」をクリックします。
大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクが作成されます。
8. 第6章に進みます。

▼ フロッピーディスクの手動作成

この方法では、フロッピーディスクの作成に必要な各手順をユーザーが実行する必要があります。

1. 書き込み可能なフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
2. Windows エクスプローラを起動します。
3. フロッピーディスクを挿入したフロッピーディスクドライブを右クリックします。
ショートカットメニューが表示されます。
4. 「フォーマット」を選択します。
「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。

図 5-4 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス



5. フロッピーディスクのフォーマット設定を指定し、「開始」をクリックします。
この手順では、「クイックフォーマット」で問題ありません。

6. フォーマットが終了したら、「閉じる」をクリックします。
7. ファイルの解凍先のファイルフォルダに移動します。
8. 「編集」メニューの「すべて選択」をクリックします。
9. マウスの左ボタンを押したまま、選択したファイルをフロッピーディスクドライブにドラッグ & ドロップします。

注 – Winzip を使用してファイルを解凍した場合は、ディレクトリ構造が保持されないため、ファイルをドラッグ&ドロップしないでください。

大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクが作成されます。

10. [第 6 章](#)に進みます。

▼ Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクの作成

次に、Linux または Solaris システムを使用してフロッピーディスクを作成する場合の手順を示します。

Linux または Solaris システムを使用してフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. フロッピーディスクの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
- ツールとドライバの CD を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順に従います。
 - a. `/tmp/files` ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp/files
```
 - b. CD をシステムに挿入し、必要に応じて CD をマウントします。
 - c. 次の例に示すように、ツールとドライバの CD の `FloppyPack` ディレクトリに移動します。

```
% cd /mnt/cdrom/windows/w2k3/packages/FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。
 - d. ツールとドライバの CD から `/tmp/files` ディレクトリにファイルをコピーします。

```
% cp -r * /tmp/files
```

- ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従います。
 - a. /tmp ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp
```
 - b. 次のいずれかの手順に従います。
 - ドライバをメディアにコピーした場合
 - i. メディアをシステムに挿入します。
 - ii. メディアをマウントします。
 - iii. 次の例に示すように、ファイルをシステムにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_1_4.zip /tmp
```

directory には、FloppyPack.zip ファイルをコピーしたメディア上のディレクトリを指定します。
 - ファイルを直接システムにダウンロードした場合
 - i. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
 - ii. 次の例に示すように、ファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_1_4.zip /tmp
```

directory には、FloppyPack.zip ファイルをダウンロードしたシステム上のディレクトリを指定します。
 - c. /tmp ディレクトリに移動します。

```
% cd /tmp
```
 - d. Floppy.zip ファイルを解凍します。
例:

```
% unzip FloppyPack_1_1_4.zip
```

これによって、新しい files ディレクトリが作成されます。
- 2. files ディレクトリに移動します。

```
% cd /tmp/files
```
- 3. 書き込み可能なフォーマット済みフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。

4. フロッピーディスクドライブをシステムにマウントします。
使用中のオペレーティングシステムに応じて、次の例を参照してください。
Solaris:

```
% volcheck
```


Linux:

```
% mkdir /mnt/floppy  
% mount /dev/fd0 /mnt/floppy
```
5. files ディレクトリのファイルおよびフォルダをフロッピーディスクにコピーします。
使用中の各 OS に対応する例を次に示します。
Solaris:

```
% cp -r * /floppy/floppy0
```


Linux:

```
% cp -r * /mnt/floppy
```
6. [第 6 章](#)に進みます。

フロッピーイメージファイルのコピー

大容量記憶装置ドライバのインストール方法としてフロッピーイメージを選択した場合は、この手順に従います。

JavaRConsole システムでドライバファイルが適切に動作することを確認してください。システムは、ドライバのダウンロードサイトからダウンロードした、またはツールとドライバの CD (705-7851-10 以降) に収録されている FloppyPack.zip ドライバパッケージにアクセスできる必要があります。パッケージのダウンロードについては、[第 3 章](#)で説明しています。

JavaRConsole システムで実行中のオペレーティングシステムに応じて、次のいずれかの手順を選択します。

- [Windows](#) を使用したフロッピーイメージファイルのコピー
- [Linux](#) または [Solaris](#) を使用したフロッピーイメージファイルのコピー

▼ Windows を使用したフロッピーイメージファイルのコピー

Windows システムを使用してフロッピーディスクのイメージファイルを作成するには、次の手順に従います。

1. ドライバファイルを準備します。
 - ツールとドライバの CD を使用してフロッピーパッケージにアクセスする場合は、次の手順に従います。
 - a. CD を JavaRConsole システムに挿入します。
 - b. 次のディレクトリに移動します。

```
windows¥w2k3¥packages¥FloppyPack
```

- ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従ってファイルをコピーし、解凍します。
 - a. FloppyPack.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - b. Windows エクスプローラを起動します。
 - c. ダウンロードしたファイルを保存した一時フォルダに移動します。
 - d. FloppyPack.zip を選択します。
 - e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

注 – 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を解凍します。解凍後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

- f. 解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
2. image フォルダに移動します。
 3. インストール中に使用できるシステム上のフォルダに floppy.img ファイルをコピーします。
 4. floppy.img ファイルの場所をメモしてから、第 6 章に進みます。

▼ Linux または Solaris を使用したフロッピーイメージファイルのコピー

1. ドライバファイルを準備します。
 - ツールとドライバの CD を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順に従います。
 - a. JavaRConsole システム上に /tmp/files ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp/files
```
 - b. CD を JavaRConsole システムに挿入し、必要に応じて CD をシステムにマウントします。
 - c. 次の例に示すように、ツールとドライバの CD の FloppyPack ディレクトリに移動します。

```
% cd /mnt/cdrom/windows/w2k3/packages/FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。
 - d. ツールとドライバの CD から JavaRConsole システム上の /tmp/files ディレクトリにファイルをコピーします。

```
% cp -r * /tmp/files
```
 - ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順でファイルを解凍します。
 - a. JavaRConsole システム上に /tmp ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp
```
 - b. 次のいずれかの手順に従います。
 - ドライバをメディアにコピーした場合
 - i. メディアをシステムに挿入します。
 - ii. 必要に応じて、メディアをシステムにマウントします。
 - iii. 次の例に示すように、ファイルを JavaRConsole システムにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_1_4.zip /tmp
```

directory には、FloppyPack.zip ファイルをコピーしたメディア上のディレクトリを指定します。
 - ファイルを直接 JavaRConsole システムにダウンロードした場合
 - i. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
 - ii. 次の例に示すように、ファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_1_4.zip /tmp
```

directory には、FloppyPack.zip ファイルをダウンロードした JavaRConsole システム上のディレクトリを指定します。

c. /tmp ディレクトリに移動します。

```
% cd /tmp
```

d. FloppyPack.zip ファイルを解凍します。

例:

```
% unzip FloppyPack_1_1_4.zip
```

これによって、新しい files ディレクトリが作成されます。

2. files フォルダに移動します。

```
% cd /tmp/files
```

3. image フォルダに移動します。

4. インストール中に使用できるシステム上の場所に floppy.img ファイルをコピーします。

5. floppy.img ファイルの場所をメモしてから、[第 6 章](#)に進みます。

Windows Server 2003 のインストール中にこの場所が必要になります。

JavaRConsole システムの設定

この章では、オペレーティングシステムのインストール用に大容量記憶装置ドライバや Windows Server 2003 のメディアを取得するために JavaRConsole システムをセットアップする方法について説明します。

注 - 第 4 章でフロッピーローカルおよび Windows ローカルの両方の取得方法を選択した場合は、第 7 章に進みます。

- 第 4 章で大容量記憶装置ドライバまたは Windows メディアを取得する方法として次のいずれかを選択した場合は、JavaRConsole システムをセットアップする必要があります。
 - フロッピーリモート
 - フロッピーイメージ
 - Windows リモート
 - Windows イメージ

注 - 本書では、JavaRConsole ハードウェアのセットアップに関する詳細な手順は説明しません。詳細は、使用している Sun Fire サーバー用の『*Integrated Lights-Out Manager (ILOM) Administration Guide (ILOM 管理ガイド)*』を参照してください。

JavaRConsole システムの要件

JavaRConsole が次の要件を満たしていることを確認してください。

- Solaris、Linux、または Windows オペレーティングシステムがインストールされていること。
- Sun Fire サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークにシステムが接続されていること。
- Java ランタイム環境 (JRE) 1.5 以降がインストールされていること。
- JavaRConsole システムで Solaris を実行している場合は、JavaRConsole が物理フロッピードライブおよび CD/DVD-ROM ドライブ、またはその両方にアクセスできるように、ボリューム管理を無効にしていること。
- JavaRConsole システムで Windows Server を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にしていること。

JavaRConsole システムのセットアップ

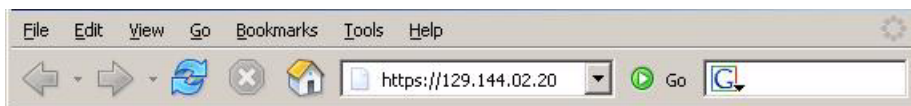
ここでは、Windows Server 2003 のリモートインストール時に大容量記憶装置ドライバを取得するように JavaRConsole システムをセットアップする方法を説明します。

注 – この手順では、使用している Sun Fire サーバーの『*Integrated Lights-Out Manager (ILOM) Administration Guide (ILOM 管理ガイド)*』の手順に従って JavaRConsole システムおよび ILOM サービスプロセッサがセットアップされていることを前提としています。

▼ JavaRConsole システムをセットアップする

1. Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサの IP アドレスを JavaRConsole システムのブラウザに入力して、リモートコンソールアプリケーションを起動します。

図 6-1 URL の例



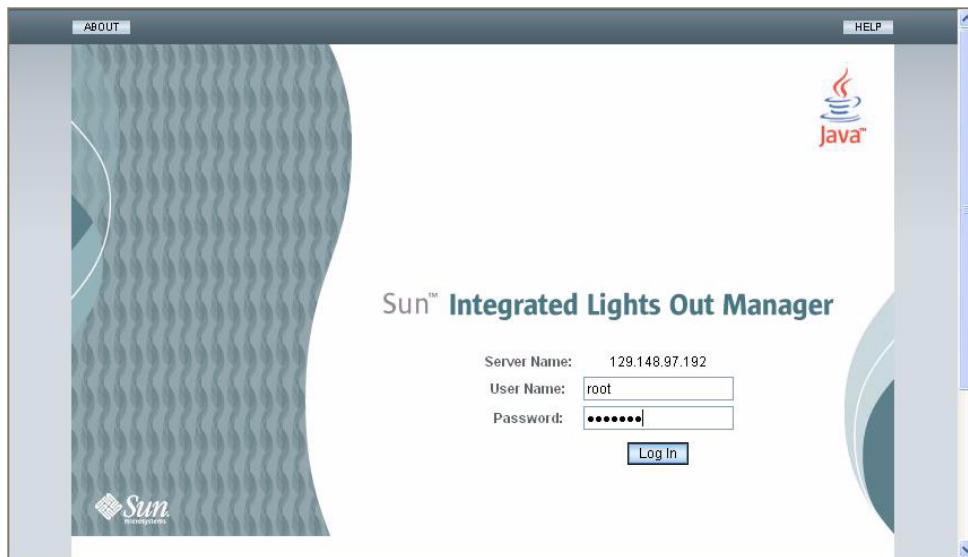
「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。

図 6-2 「セキュリティの警告」ダイアログボックス



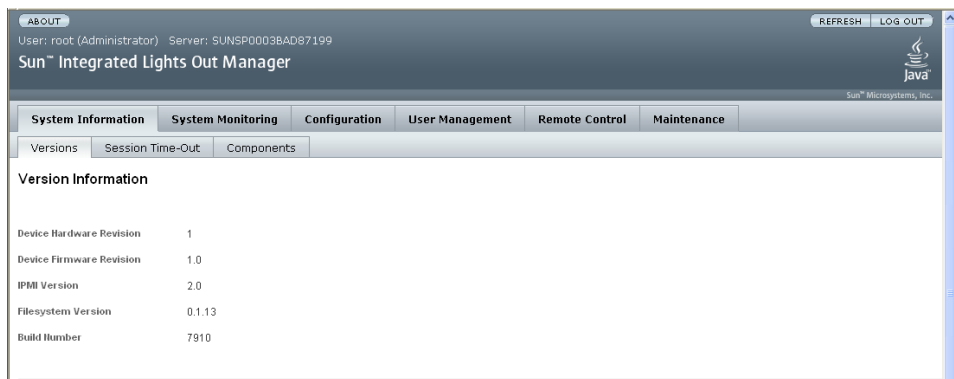
2. 「はい」 をクリックします。
ILOM のログイン画面が表示されます。

図 6-3 ログイン画面



3. ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In (ログイン)」 をクリックします。
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。
ILOM の「Version Information (バージョン情報)」画面が表示されます。

図 6-4 ILOM WebGUI インタフェースの「Version Information (バージョン情報)」画面

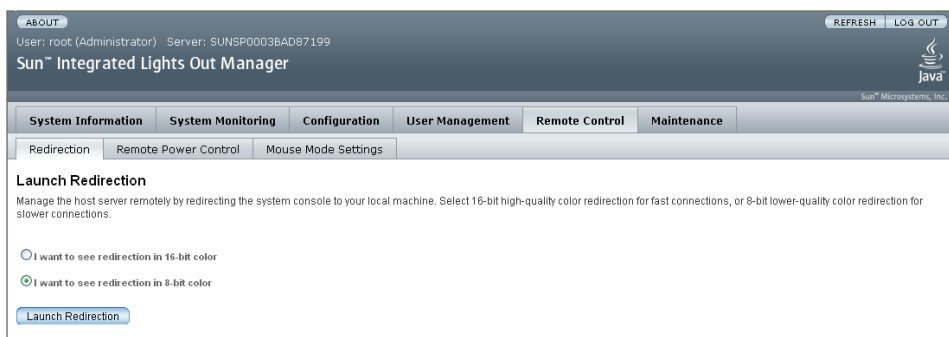


4. ILOM WebGUI で「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。

「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」画面が表示されます。

注 – 「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブでマウスモードが Absolute (絶対) モードに設定されていることを確認します。

図 6-5 ILOM WebGUI の「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」画面



5. 8 ビットカラーまたは 16 ビットカラーをクリックしてから、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックします。

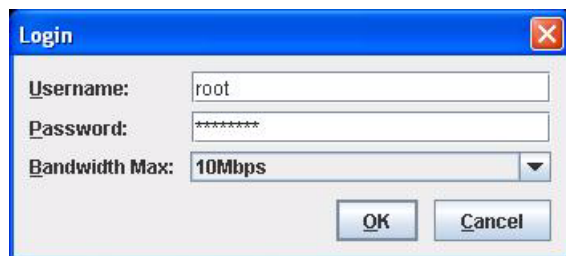
注 – JavaRConsole システムのリダイレクトに Windows システムを使用している場合は、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックしたあとに、警告がもう 1 つ表示されます。「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが表示されたら、「Yes (はい)」ボタンをクリックします。

図 6-6 「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」 ダイアログボックス



リモートコントロールのダイアログボックスが表示されます。

図 6-7 リモートコントロールの「Login (ログイン)」 ダイアログボックス



6. リモートコントロールの「Login (ログイン)」 ダイアログボックスにユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

デフォルトのユーザー名は **root**、パスワードは **changeme** です。

正常にログインすると、JavaRConsole 画面が表示されます。

図 6-8 JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニュー



7. 選択した取得方法に応じて、「Devices (デバイス)」メニューからフロッピー項目または CD 項目を 1 つ、あるいはその両方を選択します。
 - フロッピーリモート: JavaRConsole システムに物理的に接続されたフロッピーディスクドライブのコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy (フロッピー)」を選択します。
 - フロッピーイメージ: JavaRConsole システム上に保存された大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクイメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy Image (フロッピーイメージ)」を選択します。
 - CD-ROM リモート: JavaRConsole システムに接続された CD/DVD-ROM ドライブに挿入されたオペレーティングシステムソフトウェア CD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - CD-ROM イメージ: JavaRConsole システム上に保存されたオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。

注意 - CD-ROM リモートまたは CD-ROM イメージのオプションを使用して Windows Server 2003 をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするので、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールにかかる時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。

Windows Server 2003 のインストール

この章では、Windows Server 2003 のメディアを使用して、Windows Server 2003 オペレーティングシステムをサーバーに直接インストールする方法を説明します。

インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、必要な条件を満たしていることを必ず確認してください。

すべてのインストール方法で、次の要件を確認してください。

- 本書の第 3 章から第 6 章までの手順をすべて実行します。
- サーバーに付属のディスクコントローラをメモしておきます。使用しているサーバーによって、次の 3 つのうちのいずれかのコントローラが付属しています。
 - LSI Logic (統合 RAID コントローラ、POST の実行時にバナーが表示される)
 - Adaptec (統合 RAID コントローラ、POST の実行時にバナーが表示される)
 - NVIDIA (統合ディスクコントローラ、POST の実行時にバナーが表示されない)

注 - NVIDIA は、システムソフトウェアバージョン 1.0 を搭載した X4140、X4240、X4440 の各サーバーではサポートされません。

- LSI または Adaptec の統合 RAID コントローラが付属しているサーバーで、ブートドライブを RAID の設定の一部として含める場合は、Windows オペレーティングシステムをインストールする前に、コントローラのセットアップユーティリティ (サーバーのブート時にアクセスできる) を使用して RAID ボリュームを設定する必要があります。
- サーバーの適切なコネクタにキーボードとマウスが取り付けられていることを確認します。フロッピーローカルによる大容量記憶装置ドライバのインストールを選択した場合は、USB ポートを空けておきます。

- オペレーティングシステムのインストールについての個別の詳細情報については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。ここでは、使用しているサーバーに Windows Server 2003 をインストールする場合に該当する手順に限定して説明します。

選択した大容量記憶装置ドライバおよび Windows メディアの取得方法に固有の要件については、表 7-1 を参照してください。

表 7-1 各インストール方法の要件

方法	必要な操作または項目
フロッピーローカル	サーバーのいずれかの USB ポートに直接接続された USB フロッピーディスクドライブに、大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクを挿入します。インストール方法としてフロッピーローカルを使用する場合は、JavaRConsole のフロッピーディスクドライブまたはフロッピーイメージデバイスをリダイレクトしないでください。
フロッピーリモート	フロッピーディスクドライブを (必要に応じて) JavaRConsole システムに接続し、そのドライブに大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクを挿入します。
フロッピーイメージ	JavaRConsole システムから floppy.img ファイルにアクセスできることを確認します。
Windows ローカル	Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアと DVD-ROM ドライブが使用できる状態にあることを必ず確認してください。
Windows リモート	JavaRConsole システムの CD または DVD-ROM ドライブに Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアを挿入します。
Windows イメージ	JavaRConsole システムから Windows Server 2003 のインストールメディアにアクセスできることを必ず確認してください。

オペレーティングシステムのインストール

Microsoft Windows Server 2003 ソフトウェアをサーバーにインストールするには、次の手順に従います。

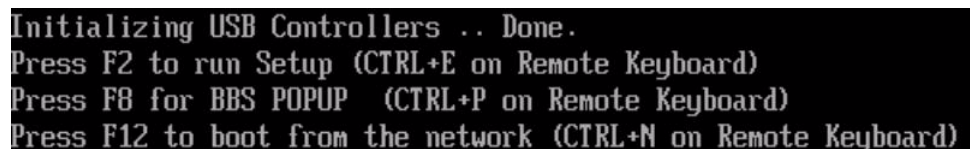
注 – サーバーのブートディスクには、Solaris オペレーティングシステムがプリインストールされている可能性があります。Windows のインストールによりブートディスクがフォーマットされ、すべてのデータが失われます。

▼ オペレーティングシステムをインストールする

1. 「[インストール要件](#)」(49 ページ)に記載されているすべての要件を満たしていることを必ず確認してください。
2. サーバーの電源を再投入します。
BIOS POST プロセスが開始されます。
3. サーバーがブートドライブの制御に Adaptec RAID HBA を使用しない場合は、[手順 4](#)に進みます。
ブートドライブの制御に Adaptec RAID HBA を使用する場合は、次の手順に従います。
 - a. BIOS POST プロセスの実行中に Adaptec RAID Configuration Utility (Adaptec RAID 設定ユーティリティ) を起動するようプロンプトが表示されたら、Ctrl-A キーを押します。
 - b. RAID 設定ユーティリティのメインメニューのオプションで、「Array Configuration Utility (アレイ設定ユーティリティ)」を選択します。
 - c. 「Initialize Drives (ドライブの初期化)」を選択します。
 - d. ブートドライブ (通常、リストの一番上の「Dev01」) を選択します。
 - e. Insert キーを押して、Enter キーを押します。
 - f. 警告のダイアログボックスで、「Y」を押します。
ドライブが初期化されます。
 - g. メインメニューの「Create Array (アレイの作成)」を選択し、Enter キーを押します。

- h. ブートドライブを選択します。
 - i. Insert キーを押して、Enter キーを押します。
 - j. 「Array Properties (アレイのプロパティ)」画面で、セットアップに合わせてブートドライブのプロパティを設定するか、デフォルトを選択します。
使用可能なプロパティの詳細に関するヘルプを表示するには、F1 キーを押します。
 - k. 「Done (完了)」を選択し、Enter キーを押します。
サーバー上の他のハードディスクドライブを Windows が認識できるようにするには、まずそれらのドライブを初期化してから、RAID 設定ユーティリティを使用してアレイまたはボリュームを作成する必要があります。
 - l. メインメニューで、Esc キーを押し、もう一度 Esc キーを押してから「Yes (はい)」を選択し、ユーティリティを終了します。
システムがリブートします。手順 4 に進みます。
4. BIOS POST 画面に「Press F8 for BBS POPUP (BBS POPUP を表示するには F8 キーを押します)」というプロンプトが表示されたら、F8 キーを押します (図 7-1 を参照)。
「BBS POPUP」メニューでは、起動デバイスを選択できます。

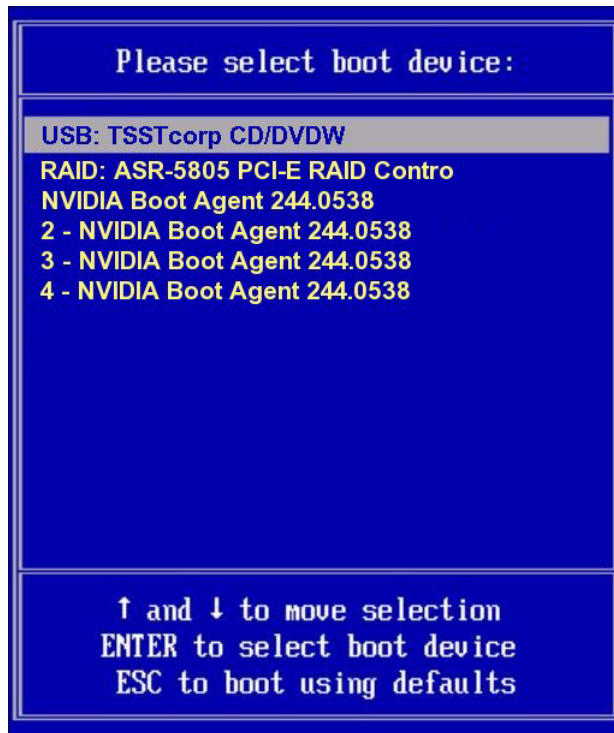
図 7-1 F8 キープロンプトの例



```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
```

5. BIOS POST プロセスが完了すると、「Boot Device (起動デバイス)」メニューが表示されます (図 7-2 を参照)。インストール方法として Windows ローカルを選択した場合は、ここで Windows メディア CD をサーバーの DVD ドライブに挿入します。

図 7-2 「Boot Device (起動デバイス)」メニューの例



6. 「Boot Device (起動デバイス)」メニューで「CD/DVDW」を選択し、Enter キーを押します。

「Press any key to boot from CD (CD からブートするにはいずれかのキーを押します)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

Windows セットアッププロセスが開始されます。

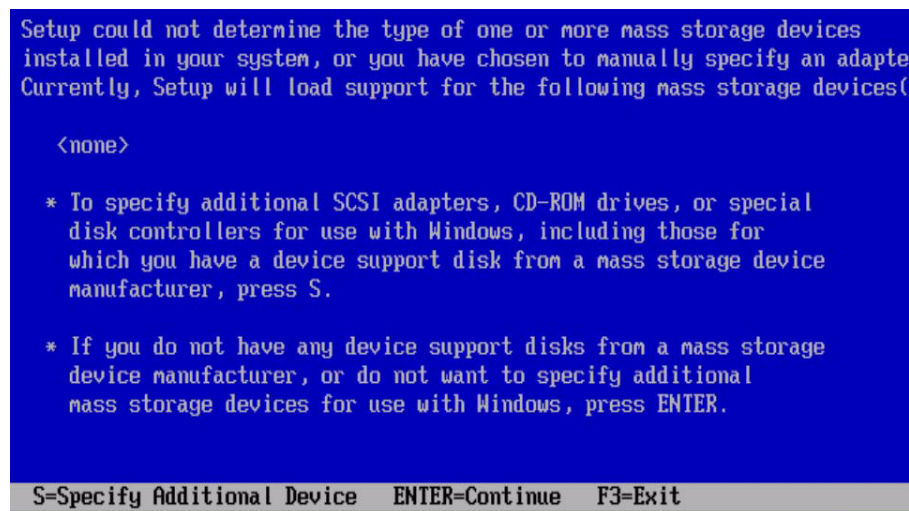
7. Windows セットアッププロセス中に画面の下に次のプロンプトが表示されたら、F6 キーを押します。

Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver. (サードパーティー製の SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押してください。)

注 - このプロンプトは、Windows セットアップの初期段階で約 5 秒間しか表示されないのを見落とさないように注意してください。このプロンプトが表示されている間に F6 キーを押さないと、追加のドライバを指定する画面が表示されず、インストールでエラーが発生します。この場合は、システムを再起動して手順 4 に戻る必要があります。

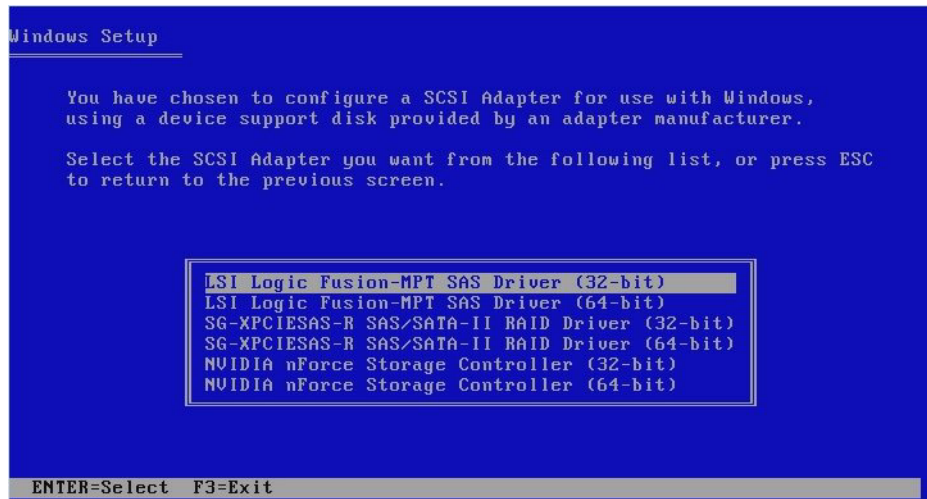
F6 キーを押すと、追加の大容量記憶装置を指定するオプションを示す画面が表示されます。

図 7-3 追加デバイスの指定画面



8. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、次のように大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。
 - フロッピーローカル: サーバーのフロッピーディスクドライブ A で大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクにアクセスできること。
 - フロッピーリモート: JavaRConsole サーバーのフロッピーディスクドライブで大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクにアクセスできること。
 - フロッピーイメージ: JavaRConsole システムで floppy.img にアクセスできること。
9. S を押して、追加のデバイスを指定します。
使用可能なドライバのリストが表示されます。

図 7-4 「Select Adapter (アダプタの選択)」画面の例



10. インストールする Windows のバージョン (32 ビットまたは 64 ビット) に応じて適切なアダプタドライバのバージョンを選択し、Enter キーを押します。

■ LSI Logic の場合:

LSI Logic Fusion - MPT SAS Driver (32-bit)
または
LSI Logic Fusion - MPT SAS Driver (64-bit)

■ Adaptec の場合:

SG-XPCIESAS-R SAS/SATA-II RAID Driver (32-bit)
または
SG-XPCIESAS-R SAS/SATA-II RAID Driver (64-bit)

■ NVIDIA の場合:

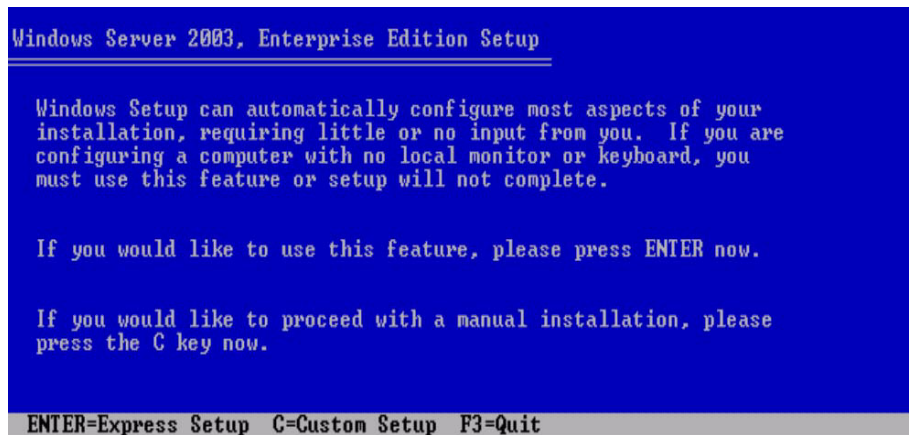
NVIDIA nForce Storage Controller (32-bit)
または
NVIDIA nForce Storage Controller (64-bit)

11. 「Welcome to Setup (セットアップの開始)」画面で、Enter キーを押して操作を続行します。

12. 「Setup Selection (セットアップの選択)」画面 (次の図参照) が表示されます。セットアップモード (Express (高速) または Custom (カスタム)) を選択して続行します。

システムディスクでハードウェア RAID を使用する場合は、「**Custom Setup** (カスタムセットアップ)」を選択し、手でディスクをパーティションに分割します。ドライブの最後に、200M バイト以上の容量をパーティションで分けずに残しておいてください。ハードウェア RAID を使用しない場合は、「**Express Setup** (高速セットアップ)」を選択します。

図 7-5 セットアップの選択画面



13. 画面の指示に従って、次のメッセージが表示されるまで、Windows Server 2003の初期セットアップを実行します。

Remove disks or other media. Press any key to restart. (ディスクまたはその他のメディアを取り出します。いずれかのキーを押して再起動してください。)

このメッセージが表示されたら、選択したドライバの取得方法に応じて次のいずれかの操作を実行し、インストールを完了する必要があります。

- フロッピーローカル: サーバーのフロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出します。
- フロッピーリモート: JavaRConsole サーバーからフロッピーディスクを取り出します。
- フロッピーイメージ: JavaRConsole のデバイスメニューでフロッピーイメージの選択を解除します。

次に、いずれかのキーを押してシステムを再起動し、Windows Server 2003 のインストールを完了します。

14. 第 8 章「重要なシステム固有のドライバのアップデート」に進みます。

重要なシステム固有ドライバのアップデート

この章では、インストール済みの Windows Server 2003 をサーバー固有のデバイスドライバソフトウェアでアップデートする方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- 「システム固有ドライバのアップデート」(58 ページ)
- 「オプションコンポーネントのインストール」(62 ページ)
- 「IPMItool のインストールの完了」(64 ページ)

この章は、次の準備がすでにできていることを前提としています。

- Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストール済みであること。
- 「サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード」(23 ページ) の説明に従って Windows.zip をダウンロードし、InstallPack.exe を展開済みであること。
- サーバーが InstallPack.exe をすぐに使用できる状態であること。

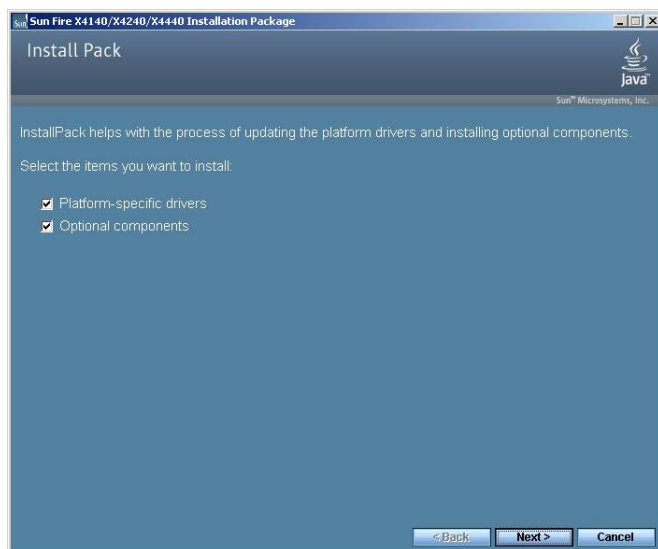
システム固有ドライバのアップデート

このセクションでは、インストール済みの Windows Server 2003 をサーバー固有のドライバでアップデートする方法を説明します。

▼ システム固有ドライバをアップデートする

1. InstallPack.exe ファイルを、現在の場所からサーバーのローカルドライブにコピーします。
2. InstallPack.exe アプリケーションを起動します。
ファイルが展開され、次の図の「Sun Fire Installation Package (Sun Fire インストールパッケージ)」ダイアログボックス (次の図参照) が表示されます。

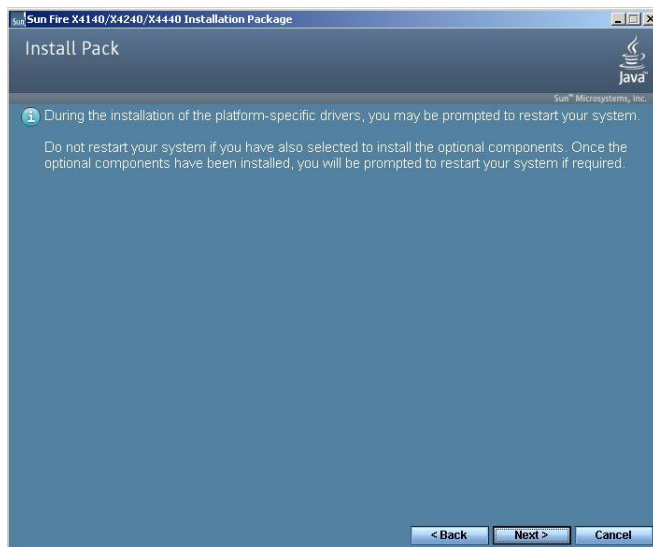
図 8-1 「Sun Fire Installation Package (Sun Fire インストールパッケージ)」ダイアログボックス



3. 「Next (次へ)」 をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。

常に「Platform-specific drivers (プラットフォーム固有のドライバ)」をオンにし、最新のドライバがインストールされるようにしてください。「Install Pack (インストールパッケージ)」通知ダイアログボックスが表示されます。

図 8-2 「Install Pack (インストールパッケージ)」ダイアログボックス



4. 情報を確認し、「Next (次へ)」をクリックします。

「Welcome to the Sun Fire Installation Wizard (Sun Fire インストールウィザードへようこそ)」ダイアログボックスが表示されます。

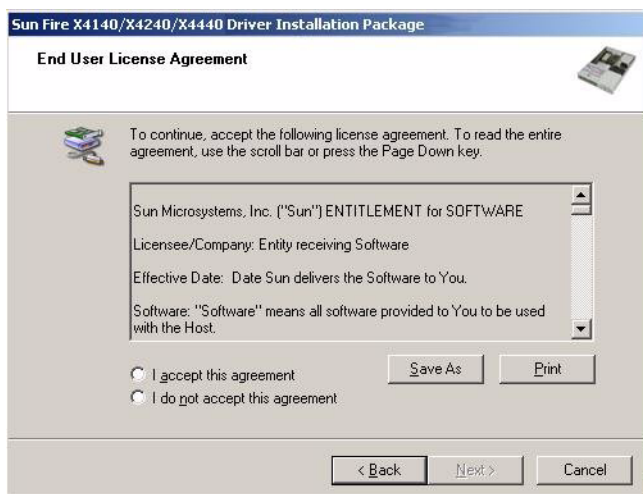
図 8-3 Sun Fire Installation Wizard (Sun Fire インストールウィザード) ダイアログボックス



5. 「Next (次へ)」をクリックします。

「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ダイアログボックスが表示されます。

図 8-4 「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ダイアログボックス



6. 「I accept this agreement (同意する)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。

インストールが開始され、最後に「Finished Installing (インストール完了)」ダイアログボックスが表示されます (図 8-5 を参照)。すべてのドライバのインストールが完了していることを確認します。エラーが発生した場合は、システムをリブートして InstallPack 実行可能ファイルを再実行してください。

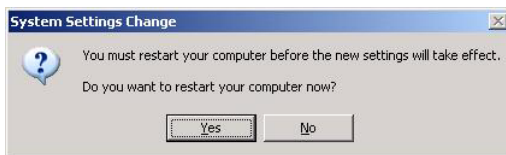
図 8-5 「Finished Installing (インストール完了)」画面の例



7. 「完了」をクリックします。

「System Settings Change (システム設定の変更)」ダイアログボックスが表示されます (図 8-6 を参照)。

図 8-6 「システム設定の変更」ダイアログボックス



8. 手順 3 でデフォルト設定を受け入れた場合は、「いいえ」をクリックして「オプションコンポーネントのインストール」(62 ページ)に進みます。

オプションコンポーネントをインストールしない場合は、「はい」をクリックしてコンピュータを再起動します。

オプションコンポーネントのインストール

Sun Fire サーバーには、オプションのコンポーネントが各種用意されています。インストール処理を進めるにあたって、推奨オプションをインストール（「Typical (標準)」）することも、独自のオプションを選択（「Custom (カスタム)」）こともできます。

表 8-1 インストールパッケージのオプションコンポーネント

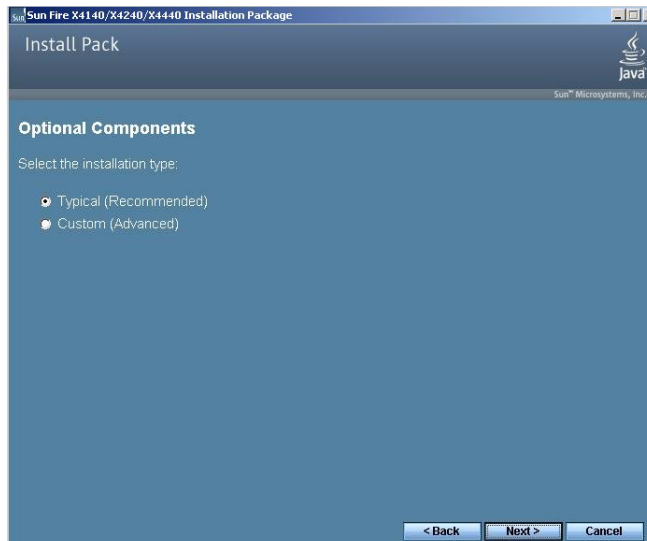
使用可能なコンポーネント	LSI 統合 RAID コントローラ 搭載サーバー	Adaptec 統合 RAID コント ローラ搭載 サーバー	NVIDIA 統合 ディスクコン トローラ搭載 サーバー
LSI MegaRAID Storage Manager - LSI SAS 1064/1068 統合 RAID コントローラで RAID を設定、監視、および管理できるようにします。	Typical (標準)	該当なし	該当なし
LSI SAS-IR Storage SNMP Agent - LSI SAS 1064/1068 統合 RAID コントローラで SNMP データを取得します。使用するには、SNMP サービス用の Windows コンポーネントが必要です。	Typical (標準)	該当なし	該当なし
Sun STK RAID Manager - Adaptec SG-XPCIESAS-R-IN 統合 RAID コントローラで RAID を設定、管理、および監視できるようにします。	該当なし	Typical (標準)	該当なし
IPMItool - センサーデータリポジトリ (SDR) の読み取り、センサー値、システムイベントログ (SEL)、および FRU (現場交換可能ユニット) のインベントリ情報の表示、LAN 設定パラメータの取得と設定、BMC 経由のシャーシ電源制御操作を実行するコマンドラインユーティリティです。このユーティリティを Windows で使用する前に、 「IPMItool のインストールの完了」 (64 ページ) を参照してください。	Typical (標準)	Typical (標準)	Typical (標準)
IPMI System Management ドライバ (Sun Microsystems) - センサーデータリポジトリ (SDR) の読み取り、センサー値、システムイベントログ (SEL)、および FRU (現場交換可能ユニット) のインベントリ情報の表示を行う Windows ドライバです。インストール済みの Windows Server 2003 R2 には適用できません。Windows Server 2003 SP1 専用です。	Typical (標準)	Typical (標準)	Typical (標準)
AMD MCAT - Machine Check Analysis Tool (MCAT) は、Windows システムイベントログ (.evt) ファイルを引数として、MCA エラーログを人が読める形式にデコードするコマンドラインユーティリティです。	Custom (カスタム)	Custom (カスタム)	Custom (カスタム)
AMD Power Monitor - システムに実装されている各プロセッサの各コアの現在の周波数、電圧、使用率、および省電力率を表示するためのユーティリティです。	Custom (カスタム)	Custom (カスタム)	Custom (カスタム)

▼ オプションコンポーネントをインストールする

注 – オプションコンポーネントをすでにインストールしている場合、インストールを再実行してもオプションコンポーネントは必ずしも再インストールされず、削除される場合があります。ダイアログボックスの内容を注意深く確認して、オプションコンポーネントのインストールを行ってください。

手順 3 の最初の「Installation Package (インストールパッケージ)」画面 (図 8-1 を参照) で「Optional Components (オプションコンポーネント)」を選択し、手順 8 で「No (いいえ)」を選択した場合は、「Optional Components (オプションコンポーネント)」ダイアログボックスが表示されます。

図 8-7 「Optional Components (オプションコンポーネント)」ダイアログボックス



1. 「Typical (標準)」設定を使用するには、「Next (次へ)」をクリックします。上級ユーザーの場合は、「Custom (カスタム)」を選択して、インストールするオプションを選択します (表 8-1 の説明を参照)。

ダイアログボックスの指示に従って、選択オプションコンポーネントを順にインストールします。

注 – 推奨設定を変更すると、一部のオプションコンポーネントでは、署名されていないドライバと一緒にインストールされます。そのような場合でも、システムは正常に動作します。署名されていないドライバがインストールされるたびにセキュリティの警告ダイアログボックスが表示されますが、「はい」を選択してインストールを続行してください。

2. オプションコンポーネントがインストールされたら、「Install Pack completion (インストールパッケージの完了)」ダイアログボックスで「Finish (完了)」をクリックし、オプションコンポーネントのインストールを完了します。
3. 「System Settings Change (システム設定の変更)」ダイアログボックスで「Yes (はい)」をクリックし、システムを再起動します。

LSI Logic ディスクコントローラを搭載したサーバーでボリュームを作成し、RAID を設定するには、MegaRAID Storage Manager を使用します。詳細については、製品ドキュメントサイトにある『x64 Servers Utilities Reference Manual (x64 サーバーユーティリティリファレンスマニュアル)』を参照してください。

Adaptec 統合 RAID コントローラを搭載したサーバーでボリュームを作成し、RAID を設定するには、Sun StorageTek RAID Manager を使用します。詳細については、製品ドキュメントサイトにある『Sun StorageTek RAID Manager Software User's Guide (Sun StorageTek RAID マネージャソフトウェアユーザズガイド)』を参照してください。

使用可能なオプションのユーティリティの一覧については、次の製品ドキュメントサイトにある Sun Fire サーバーの『Product Notes (ご使用にあたって)』を参照してください。

<http://sun.docs.com>

IPMItool のインストールの完了

IPMItool は、センサーデータリポジトリ (SDR) の読み取り、センサー値、システムイベントログ (SEL)、および FRU (現場交換可能ユニット) のインベントリ情報の表示、LAN 設定パラメータの取得と設定、サーバーのサービスプロセッサ経由のシャーシ電源制御操作を実行するコマンドラインユーティリティです。IPMItool はオプションのソフトウェアコンポーネントで、サーバーのツールとドライバの CD を使用するか、この章で前述した Installpack.exe 実行可能ファイルを使用してインストールできます。

IPMItool をインストールすると、次の方法でサーバーのサービスプロセッサ (またはサポートされている別の Sun サーバーのサービスプロセッサ) にアクセスできるようになります。

- サーバーの ILOM (*Integrated Lights Out Manager*) インタフェース経由のアクセス。ILOM の使い方の詳細については、サーバーの ILOM のドキュメントを参照してください。
- サーバーの Windows オペレーティングシステム経由のアクセス。IPMItool を Windows で使用するには、IPMI System Management ドライバ (Windows Server 2003 R2 に付属、または Windows Server 2003 SP1 用の Sun のオプションソフトウェアコンポーネントとして入手可能) を併用する必要があります。IPMItool を Windows で使用する際の必要事項を満たしているかどうかを確認するには、次に示す要件を参照してください。

要件

IPMItool を使用するには、Windows バージョンに指定されている次の要件を満たしていることを確認します。

- **Windows Server 2003 SP1 の場合:** Sun のオプションソフトウェアコンポーネント、IPMI System Management ドライバをインストールしている必要があります。[「システム固有ドライバのアップデート」\(58 ページ\)](#) を参照してください。このインストールを完了すると、IPMItool を使用できます。
- **Windows Server 2003 R2 の場合:** Microsoft IPMI System Management ドライバがインストールされ、インスタンス化されていることを確認します。この作業が完了していないと、IPMItool を Windows オペレーティングシステムで使用できません。下の手順に従って操作を行ってください。

▼ IPMI System Management ドライバをインストールする (Windows Server 2003 R2)

IPMItool を Windows オペレーティングシステムで使用する前に次の操作を行います。

1. **Microsoft IPMI System Management ドライバがインストールされていることを確認します。**
 - a. タスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
 - b. 「名前」ボックスに `devmgmt.msc` と入力し、「OK」をクリックします。
デバイスマネージャが表示されます。
 - c. 「システムデバイス」を展開し、「Microsoft 汎用 IPMI 準拠デバイス」があるかどうかを確認します。
 - この項目が表示されている場合は、ドライバがインストールされており、IPMItool を使用できます。デバイスマネージャを閉じます。
 - この項目が表示されていない場合は、Microsoft IPMI System Management ドライバをインストールする必要があります。デバイスマネージャを閉じ、次の手順に進みます。
 - d. コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を開きます。
「プログラムの追加と削除」ダイアログボックスが表示されます。
 - e. 「Windows コンポーネントの追加と削除」をクリックします。
「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

- f. 「管理とモニタツール」コンポーネントを強調表示して、「詳細」をクリックします。
「管理とモニタツール」ページが表示されます。
- g. 「ハードウェアの管理」サブコンポーネントのチェックボックスをオンにします。
「サードパーティドライバをインストールしようとしています」という警告メッセージが表示されます。
- h. 警告メッセージを確認し、「OK」をクリックします。
「管理とモニタツール」ページが表示されます。
- i. 「OK」をクリックします。
「Windows コンポーネントウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
- j. 「次へ」をクリックします。
ハードウェアの管理コンポーネントがインストールされます。

2. IPMI System Management ドライバをインスタンス化します。

- a. タスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されます。
- b. 「名前」ボックスに、次のコマンドを入力します。

```
rundll32 ipmisetp.dll,AddTheDevice
```

入力したら、「OK」をクリックします。
IPMI System Management ドライバがインスタンス化されます。
- c. 上の 1a ~ 1c の手順を繰り返して、IPMI System Management ドライバがインストールされていることを確認します。

IPMItool の使い方については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』(820-2698)を参照してください。標準 IPMItool コマンドの詳細については、次の Web サイトを参照してください。

<http://ipmitool.sourceforge.net/manpage.html>

RIS イメージへの Sun Fire ドライバの組み込み

この章は、ドライバパッケージをリモートインストールサービス (RIS) イメージに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

この章は、RIS のチュートリアルではありません。あくまで、サーバー固有のドライバを RIS イメージに組み込む方法を説明するガイドです。

必要なドライバの確認

RIS イメージに組み込む必要があるサーバー固有のドライバを、表 9-1 に示します。

表 9-1 RIS に必要なサーバー固有のドライバ

デバイス	32 ビット版 Windows Server 2003 に必要	64 ビット版 Windows Server 2003 に必要
AMD K8 プロセッサ	はい	はい
AMI 仮想フロッピー	はい	はい
ディスクコントローラドライバ (サーバーに依存): <ul style="list-style-type: none"> • LSI Logic Fusion-MPT RAID HBA、または • StorageTek SG-XPCIESAS-R (Adaptec RAID コントローラとも呼ばれる)、または • NVIDIA nForce Storage Controller* 	はい	はい
NVIDIA nForce PCI System Management	はい	はい
NVIDIA nForce4 HyperTransport ブリッジ	はい	はい
NVIDIA nForce4 LPC コントローラ	はい	いいえ

* NVIDIA は、システムソフトウェアバージョン 1.0 を搭載した X4140、X4240、X4440 の各サーバーではサポートされません。

RIS イメージへのドライバの追加

以下の手順では、次の表記を使用します。

- %RIS_Image% は、RIS サーバー上の Windows イメージのルートを示します。
- %Arch% は、Windows イメージに関連付けられているアーキテクチャ (i386 (32 ビット) または amd64 (64 ビット)) を示します。

次の手順では、RIS イメージにドライバを組み込む方法について説明します。

▼ RIS イメージにドライバを追加する

1. %RIS_Image% (RIS サーバー上の Windows イメージのルート) で、次のディレクトリを作成します。
 - \$OEM\$\textmode
 - \$OEM\$\\$\$OEMDIR
 - \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers
2. DriverPack.zip の内容を一時的な保存場所に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。
3. Windows プラットフォーム用のサーバー固有のドライバをコピーして、%RIS_Image% をアップデートします。
 - 32 ビット版では、DriverPack\32-bit フォルダのコンテンツを %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers フォルダにコピーし、ディレクトリ構造を確実に保持します。
 - 64 ビット版では、DriverPack\64-bit フォルダのコンテンツを %RIS_Image%\\$OEM\$\\$1\Sun\Drivers フォルダにコピーし、ディレクトリ構造を確実に保持します。
4. 大容量記憶装置ドライバをコピーして、%RIS_Image%\\$OEM%\textmode フォルダをアップデートします。
 - %RIS_Image%\\$OEM%\\$1\Sun\drivers\lsi フォルダのコンテンツを %RIS_Image%\\$OEM%\textmode フォルダにコピーします。
 - %RIS_Image%\\$OEM%\\$1\Sun\drivers\sun フォルダのコンテンツを %RIS_Image%\\$OEM%\textmode フォルダにコピーします。
 - %RIS_Image%\\$OEM%\\$1\Sun\drivers\nvidia\sata フォルダのコンテンツを %RIS_Image%\\$OEM%\textmode フォルダにコピーします。
5. %RIS_Image%\\$OEM%\\$1\Sun\nvidia\sata\videcoi.dll ファイルを %RIS_Image%\\$OEM%\\$\$OEMDIR フォルダにコピーします。

6. %RIS_Image%\%\$OEM%\\$1\Sun\Drivers\RIS フォルダのコンテンツを
%RIS_Image%\%\$OEM%\textmode フォルダにコピーします。
コンテンツをコピーした後、%RIS_Image%\%\$OEM%\\$1\Sun\Drivers\RIS フォルダを削除できます。
7. %RIS_Image%\%\$OEM%\\$1\Sun\Drivers\nvidia\RIS のすべてのファイルを
%Arch% フォルダにコピーします。
ファイルをコピーした後、RIS_Image%\%\$OEM%\\$1\Sun\Drivers\nvidia
\RIS フォルダを削除できます。
8. Microsoft TechNet のサポート技術情報「Creating an Answer File with Setup
Manager (セットアップマネージャを使用した応答ファイルの作成)」の方法に
従って応答ファイルを作成します。この文書を入手するには、次の場所を参照し
てください
<http://technet2.microsoft.com/WindowsServer/en/library/78421630-6fcc-4604-a888-bd9c84244a5b1033.mspx>
9. インストールに使用する .sif ファイルに、次の変更を加えます。サーバーにイン
ストールされているディスクコントローラ (LSI, Adaptec または NVIDIA - 不
明の場合は、「インストール要件」(49 ページ) を参照) に対応する変更内容を使用
して下さい。
読みやすいように、OemPnpDriversPath 情報は複数行に分けて表示していますが、
実際は 1 行に入力してください。MassStorageDrivers の 3 つのドライバは複
数行に分けて表示しています。これらのドライバ (「ドライバの説明」= OEM) はそ
れぞれ別々の行に入力してください。

図 9-1 32 ビット版または 64 ビット版の Windows を実行しているサーバー用の .sif ファイルの変更内容

32 ビット	64 ビット
<pre>[Unattended] OemPreinstall = yes OemPnPDriversPath = "%sun%drivers%amd %cpu;%sun%drivers%nvidia%smbus;%sun%drivers %nvidia%ethernet;%sun%drivers%aspeed"</pre>	<pre>[Unattended] OemPreinstall = yes OemPnPDriversPath = "%sun%drivers%amd %cpu;%sun%drivers%nvidia%smbus;%sun%drivers %nvidia%ethernet;%sun%drivers%aspeed"</pre>
<pre>[MassStorageDrivers] "SG-XPICIESAS-R SAS/SATA-II RAID Driver (32- bit)" = OEM "LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver (32-bit)" = OEM "NVIDIA nForce Storage Controller (32-bit)" = OEM</pre>	<pre>[MassStorageDrivers] "SG-XPICIESAS-R SAS/SATA-II RAID Driver (64- bit)" = OEM "LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver (64-bit)" = OEM "NVIDIA nForce Storage Controller (64-bit)" = OEM</pre>
<pre>[OEMBootFiles] arcsas.cat arcsas.inf arcsas.sys lsi_sas.inf lsi_sas.sys lsi_sas.tag lsinodrv.inf nvata.cat nvgts.inf nvgts.sys s2k332.cat txtsetup.oem idecoi.dll</pre>	<pre>[OEMBootFiles] arcsas.cat arcsas.inf arcsas.sys lsi_sas.inf lsi_sas.sys lsi_sas.tag lsinodrv.inf nvata.cat nvgts64.inf nvgts64.sys s2k3am64.cat txtsetup.oem idecoi.dll</pre>

10. RIS サーバーでリモートインストールサービス (BINLSVC) を停止してから、開始します。これを行うには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの後に Enter キーを押します。

```
> net stop binlsvc
> net start binlsvc
```


索引

I

- ILOM リモートコンソール
 - 使用、OS のインストール 18
- IPMITool、使用上の要件 64

J

- JavaRConsole
 - システムの設定 41
 - システムの要件 42
 - セットアップ手順 42

R

- RAID に関する考慮事項、ブートディスク 2

S

- Sun Installation Assistant
 - エラーメッセージ 21
 - 使用方法 12
 - ログファイル 22

W

- Windows インストールの準備 1
- Windows、サポートされているバージョン 3
- Windows のメディア
 - CD-ROM のリダイレクト 47
 - CD イメージのリダイレクト 47
 - インストールの準備 26
- Windows メディア、取得方法 2

あ

- イメージファイル
 - Linux または Solaris での作成 38
 - Windows での作成 37
- インストール、RIS を使用した Windows のリモートインストール 67
- インストール、Windows メディアからのインストール 51
- インストールするドライバと Windows メディアの取得方法 2
- インストール方法、自動または手動 2
- インストール方法の選択 2
- エラーメッセージ、Sun Installation Assistant 21
- オペレーティングシステムのインストール
 - Windows のメディアの準備 26
 - ガイドライン 2
 - 概要 1
 - 大容量記憶装置ドライバの取得 29
 - 大容量記憶装置ドライバの準備 25
 - 手順 51
 - 要件 49

か

- ガイドライン、オペレーティングシステムのインストール 2

さ

- 作成、大容量記憶装置ドライバフロッピーディスク 29
- サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード 23
- サポートされている Windows のバージョン 3
- システム固有ドライバ
 アップデート 58
- システムの設定、JavaRConsole 41
- 自動インストール、SIA の使用 2

た

- 大容量記憶装置ドライバ
 イメージファイルのコピー 36
 Linux または Solaris の使用 38
 Windows の使用 37
- インストールの準備 25
- 取得の準備 29
- フロッピーイメージのリダイレクト 47
- フロッピーディスクの作成 29
 Linux または Solaris の使用 34
 Windows での手動作成 33
 Windows での自動作成 31
 Windows の使用 30
- フロッピーディスクのリダイレクト 47
- 手順、オペレーティングシステムのインストール 51
- ドキュメント
 フィードバック ix
- ドライバ
 システム固有ドライバのアップデート 58
- 大容量記憶装置ドライバ
 取得の準備 29
 取得方法の選択 25
- ダウンロードサイト 23
- ダウンロード手順 23
- ドライバ、取得方法 2

は

- 表記上の規則 viii
- フロッピーディスクの作成
 Linux または Solaris の使用 34
 Windows での手動作成 33
 Windows での自動作成 31
 Windows の使用 30
- ブートディスク、RAID に含める際の考慮事項 2

や

- 要件、オペレーティングシステムのインストール 49

ら

- リモートインストールサービス (RIS)
 ドライバの概要 67
 ドライバの追加 68
 必要なドライバ 67
- リモートコンソールのリダイレクト、ドライバおよび Windows メディアへのリダイレクト 41
- リモートサーバーコンソールのリダイレクト、JavaRConsole の使用 41
- ログファイル、Sun Installation Assistant 22